男女貞潔之理想　會長 島田三郎

公娼廢止之主張　副會長 安部磯雄

4―883

大正七年十一月一日第三種郵便物認可
（大正七年十一月一日發行）

廓清

第八卷第十一號

□廓清時言……廓清會主事 伊藤江南

□英國名譽同盟の運動　早大教授 安部磯雄

□佛國戰時の廓清運動　廓清會理事 油谷治郎七

□婦人の職業問題研究　法學博士 山脇玄

□一元的生活……三輪田高等女學校長 三輪田元道

□歐米の緊張せる風紀…聯合軍慰問使 山本邦之助

□女大學新評論（七）……一條忠衛

□婦人と家庭の衞生…女子醫學專門學校長 吉岡彌生

□男女の貞操（懸賞）……第三高等學校 緒方準一

□男女の貞操（懸賞）……法政大學 庄司作五郎

□編輯の後……宮地生

東京　廓清會本部　發行

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

ライオン歯磨

赤ちゃんのお口を
清潔にするには、
芳香含嗽料
ライオン水歯磨の
二三滴をコップ一杯の水の落し、それ
に脱脂綿を浸して、お口の中を拭つて
あげるのが最もよろしうございます。

本誌は現代に理想を與へ人心に生命の靈火を點ず

十一月一日 記念號創刊

理想と生命に餓えたる生活の苦惱者は本誌に來れ！

文化運動

主幹 文學博士 福來友吉

（本號に限四拾錢 郵稅二錢）

趣意信條内容は往復葉書で進呈

◇日本人文協會趣意・信條・誓約

生命主義の信條……文學博士 福來友吉

◇生命を育くむ爲の運動……石田◇最近講壇印象記

日本文化史論（長篇）……文學博士 遠藤隆吉

◇文部大臣と教育者に……三浦◇高野山所感……福來

文化國民の使命……森戸教授◇原內閣論……細井肇

◇露國の將來と米國の後援……岡田◇大勢小言

理想を失へる國民……湯原元一◇成金論……宮田修

◇志士的氣慨と宗教的熱心……井箆◇豆腐屋から大臣に

官僚的社會政策を排す……安部磯雄

◇火刑となつた哲人ブルノー……眺浜◇ラッセルと神秘

魂は私に告げる（長篇告白）……有島武郎

◇最近の政變及騷擾に對する哲學的批判……土田杏村

讀心術の實例……福來博士◇月の研究……一戸博士

◇文化意識の發展と現代文化意識……野村隈畔

貧の原因……賀川豊彦◇死刑囚の手紙……關谷梵山

◇性慾道德と名譽競爭……山室軍平◇結婚と愛……齋賀琴

婦人を惑はす論……山田わか◇健康法（一）……江間式假鉄法

◇我生活の手帖から……吉田絃二郎◇十月の創作……靜雄

文展を見て……木村莊八◇或日曜の朝……若山牧水

◇此秋の黨會を見て……高安月郊◇藝術座研究劇合評

創作 一室の牢獄（自己苦悶の告白小說）……田山花袋

定價一冊三十錢郵稅五錢 半年前金一圓八十錢 一年金三圓五十錢 郵稅共

東京牛込拂方町三

日本人文協會

電話番町三二七三 振替東京二七九二〇

中央慈善協會編纂

菊版約二百頁 定價八拾錢送料六錢

精神異常者と社會問題

精神異常者と社會問題とは密接の關係を有し、隨つて其の救濟は我邦現下に於ける喫緊事たり。本書は即ち斯道の大家が各自其の專門の立場より熱烈なる論究を紹叫せるもの。

內容

第一、精神病と救濟

一、精神病者の救濟並精神病學的社會問題……（吳博士）
二、民族衞生上より觀たる精神病……（永井博士）
三、精神病的中間者及色情異常者の救護……（三宅博士）
四、精神病者に對する醫學と法律との交涉……（山崎學士）
五、本邦精神病者の統計的觀察……（武崎學士）
六、社會的危險性精神病者と其處置……（杉江學士）
七、監獄に於ける精神病者を如何に保護す可きか……（井村醫病院長）
八、白痴及低能者と其救濟……（後藤學士）
九、賣笑婦と精神病……（高峰學士）

第二、精神病に關する施設並意見

一、我邦に於ける精神病院の發達及現況……（樫田學士）
二、歐米に於ける精神病院の發達及現況……（杉田學士）
三、白痴教育發達史……（石井瀧の川學園長）
四、歐米に於ける白痴院の發達及現況……（池田學士）
五、感化院に就て附感化教育と精神科醫……（黑澤學士）
六、飲酒と精神病並酒客院の施設……（橋學士）
七、癲癇及癲癇病院……（下田學士）
八、精神病者監護法の改正よりも先づ精神病者法及精神病院法を制定せよ……（片山博士）
九、精神病者保護に就て……（杉山衞生局長）

發行所 東京市麴町區大手町 大日本私立衞生會內 中央慈善協會 振替貯金東京三八四四〇

廓清
THE PURITY

第八巻第十一號

大正七年十一月

廓清時言

米騒動と遊廓の閉鎖

過般の米價騒動は、人間生活の根本に發したる最も危險性の暴動なり、富山縣に於ける漁夫の妻女連二百名の一揆を導火線として、遂に軍隊の出動を見るに及んで辛うじて鎭壓するを得たるもの三十ヶ所に達したる程なりき。先帝陛下は畏くも『一人にても其處を得ざる者あらば朕が罪なり』とまで宣ひしが、今次の騒亂は全國に亙り、多數の國民は飢餓に迫り、法網に觸るゝを顧るに遑なく、先づ生きんが爲め、一椀の食を得んが爲めに流血の慘を辭せざる聖代の一大不祥事なりき。斯の如き國民窮迫の時期に於ては、公娼制度の如き淫蕩の機關は、國家として須らく閉鎖を命じ、聖上百萬の御内帑金を下し給へる大み心を畏みて、國民は餘財を同胞の救濟に致すべきに、何事ぞ此の國民危急の時に方り、國家はなほ遊蕩を保護し同胞姉妹を辱しめて其の獸性を滿足せしめんとする遊冶郎の足は踵を接し暴動の高潮時たる八月中に於ける東京府下各遊廓の嫖客數は三十五萬三百八十五名にして、昨年の同月に比し、吉原洲崎のみにて二萬五千餘名を増し、郡部に於て四千五百餘名を増せり、而して其の消費額は八十七萬八千百六十六圓九十六錢五厘に上り、昨月の同月に比し二十五萬千百九十九圓六十八錢を増加せり。何等の矛盾ぞや。吾人は歐米に於ける聯合諸國の緊張せる態度に顧み、少くとも戰時中國民遊蕩の機關の如きは眞先に閉鎖さるべきものなるを信ずれ共、更に今次の國民窮迫の時代に於て尙淫蕩機關の閉鎖を見ず、却つて其繁昌を聞くに及んでは豈痛憤の情なきを得んや。

現に去る八月の暴動に於て、窮民に暴行を加へられ若くば加へられんとする危險ありしものは、第一富豪の邸第にして、次は劇場寄席活動寫眞館、

並びに遊廓待合の類なりき、食に糧なく着るに衣なきの時、鼓腹拌舞鄭聲を弄して憚らざるあらば、憤怨の情抑ふるに由なく、之に暴行を加ふるは、蓋し自然の情ならん。況んや金力を以て節操を弄び揚々淫樂するの遊廓に對し、勃然として瞋恚するは元より其處なり、故にいふ此際彼等の暴行を誘致せしむる淫蕩機關の閉鎖を命ずるは、又以て廓內に於ける生命財產を保護する所以の道也と。當局の英斷を望むや切。

敎育調査會議の固陋

去日催されたる臨時敎育會議總會に於て、議定したる諮問答申案の第一項は、

一、女子敎育に於ては敎育に關する勅語の聖旨を充分に體得せしめ、殊に國體の觀念を鞏固にし、淑德節操を重んずるの精神を涵養し、一層體育を勵み勤勞を尙ぶの氣風を振作し、虛榮を戒め奢侈を愼み、以って我家族制度に適するの素養を與ふるに主力を注ぐの必要ありと認む。

とあり、各方面の名士を網羅したる調査會の決議として其陳套平凡啞然たらざらんとするも得んや。今日の家族制度は吾人の屢說くが如く全く封建時代の遺蘖にして、秩祿職業を繼承し、二男三男の聟養子を原則とする時代を去つて自由に其の職業を選擇し、自由に墳墓の地を離れて驥足を延ばし、女子亦繫累なき男子を求めて結婚せんとする時代に於て、なほ過去の幻影を逐ひ、家を認めて人を犧とする家族制度なるものに適應せしめ、女子の人格個性を沒了せんとす。無謀とや云はん無識とや云はん。敎育の理想は人格主義を外にして求む可きなし、抑も家族制度を維持せんとするが如きは、流水を堰きて自ら溺沒せんとする者なり。

更にまた「淑德節操を重んずる精神を涵養すべき」の必要を知つて、淑德節操を一圓均一の正札を附して賣買する公娼制度の前に瞑目する敎育會議の効果や知るべきのみ。

英國に於ける婦人參政

英國下院は昨年六月婦人參政權法案を可決し、更に去る二十二日被選擧權法案をも大多數を以て通過し、之によりて婦人の有權者六百萬人に達したりといふ。吾人は特に此の際フオーセツト派よりもパンカースト一派の活動を追想し、其歡喜の情を彷彿すると共に、參政の效果に囑目せざる能はず。

思ふに婦人參政は既に世界の大勢也。政治上にも男女の不平等を認容すべき論據ある事なし、米國は既に三分の二は洲法之を認め、將に憲法を改正し婦人參政を聯邦法の上に認めんとしつゝあり、其他濠洲聯邦に於て、芬蘭、諾威に於て、丁抹、和蘭に於て、近く露西亞に於て亦之を認め居れるに、我國のみ『女童の知る事ならず』などと稱し、政談演說の傍聽をすら許されず、また之を要求せんとする婦人だになし。噫。

風紀紊亂の功勞に報ゆ

牛込區神樂坂にお鐵婆さんと呼ぶ名高き待合の女將あり。神樂坂花柳界今日の隆盛を來したるは、一に此の婆さんのお陰なりとて、同地花柳界の連中相醵金して、銅像を同區中の最も繁華なる神樂坂通り毘沙門の境內に建て、先日其の除幕式を行ひたりといふ、最も多く風敎を紊亂したるの功勞を以て銅像を神域に建立せしむる國民は何たる墮落ぞや。(江南)

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

英國名譽同盟の運動

早稻田大學教授
廓清會副會長　安部磯雄

□個人の道德向上の働き

英國に日本の廓清會と同じやうな『名譽同盟』と稱する團體があつて、男女關係を清潔ならしむる爲めに非常な活動をなしてゐる。尤も廓清會と全く匹敵する團體は外にあるから、その別働隊といふ方がよいであらう。『名譽同盟』といふのは別に公娼廢止といふ樣な事業を目的とするといふよりも、個人々々が貞操を重んじて行くにある。貸座敷といふものを廢して了ふよりも、寧ろそれに出入する者をして止めさせる、行かない樣に努めるといふ團體である。

會員には十八歳以上の者は誰でもなれる。併し會員になりたいと云へば十五歳以上の者でもなれぬ事はない。此會は今非常な有力な團體となつてゐて、宗教の方と關係があり、大概團長とか副團長=は三四十人もある=は有名な宗教家で、而も各派聯合、少しも宗派など論ぜずにやつてゐる。

此の團體は平生どういふ事を行つてゐるかといふと、小冊子を出し、男女の清潔を勸めてゐる。會員は夜不潔なる場所に行く人を引止める爲めに見張りをしてゐて、行く人があると直に呼止め『名譽同盟』の規則や趣意書や小冊子などを渡すのである。此戰爭になつてからは一層軍人にこれを勸める必要があるといふので、特別に運動を開始してゐる。そして今度新しく會員になる人のモットーとしてゐるのは、第一祖國の爲に敵を防ぐといふ事、第二祖國の爲め自分の身を清潔に保つといふ事で、此二つをモットーとして會員を募集する事になつてゐる。先般歐米に軍隊慰問に行かれた我廓清會の理事である益富君から、澤山小冊子を送つて呉れたから、追々よいものは飜譯して之を廓清誌上に公にする事が出來るかも知れぬ。私は今日此の名譽同盟がどういふ趣意で成立つてゐるかといふ事を話したいと思ふが、それには入會の時に宣誓する三ケ條の事を述べるのが一番いゝと思ふ。且つ我々が之によりて名譽同盟の精神を知る事が出來ると同時に、日本に於て我々が斯ういふ運動をする時の參考になるのである。

實は廓清會の如きも、公娼制度の樣な制度を改める事に全力を注いでゐるから、一人々々を謹むといふ事には充分力の這入つてゐないのである。其證據には會員にはそんなに青年はゐない。いや青年も無論大分あるが中堅になつて働いてゐる者は皆結婚してゐる男女で、會員中にも既婚者が多いや

うに思はれるのである。併し將來は名譽同盟の樣に未婚の青年を多數に得たいと思ふ。

□言語思想の純潔を期す

名譽同盟に入會する時なす誓約の三ヶ條といふのは、

第一、思想言語及び行爲に於て男女間の節操を遵守する事且つ如何なる時に於ても婦人に對して敬意を表する事。

第二、常に祈禱を怠らざる事。

第三、禁酒する事。

であつて、此の三ヶ條の誓約の後更に、此の戰時に於ては『國家の名譽及び戰地に於ける戰士の名譽を維持する爲めに、あらゆる努力をなす』といふ事を誓約するのである。

私が此の三ヶ條に就て述べて見たいと思ふ事は、若し青年であつて我廓清會に入會するものがあるならば、やはり此の三ヶ條を飽迄も守るといふ決心をして貰ひたいのである。私共のいふ男女間の清潔といふものは、單に我々の行爲のみをいふのではない。誓約にある通り思想に於ても言語に於てもさうでありたい。汚い考を懷いたり、猥褻なる言語を吐くといふ事は、上品なる男女のなす事ではないから、我々はそれを飽迄もしない決心を要する。我々は動もすると行爲にさへ現はれなければいゝ樣に思ひ易い。我々は嘗て不正なる男女關係を結んだ事はない。故に立派なものだと考へるが、歐米の宗教家はそれだけでは滿足しない。『凡そ婦を見て色情を起す者は衷心既に姦淫したるなり』といふキリストの敎へを守つてゐるのであるから、行爲を愼む前に思想を愼まねばならぬ。名譽同盟は卽ち其處迄行かうといふのである。

次に如何なる場合に於ても婦人に對して敬意を表するといふ、之れは我々日本人に取つては甚だ六ヶ敷いのであつて、永い間の習慣であるから、ほんとに婦人に關して敬意を表するのは困難である。日常我々の生活を顧ても夫が妻に對するとか、男の子が女の子に對するといふ場合に、女を一段下の者と見てゐるのであつて、之が男女間に不正な關係を起す一因となつてゐる。歐米でも全部とは決して云はないが、大體に於て、婦人に對するほんとの尊敬があればこそ、婦人を犯す事を罪惡とする考が强く起るのである。たとへ宗教を信ぜなくてもデモクラシーの思想でもよい。デモクラシーの思想が發達すればそれ丈でも餘程違つて來る。男女の間に價違ひはない平等である、といふことになつて來たならば、男女間の貞操は今日よりもずつと進んで來るに違ひない。

□敬虔なる心持の必要

第二は常に祈禱をなすといふ事で、これは純然たる宗敎である。第一此の名譽同盟なるものが主に宗敎家の發企で出來てゐるのみならず、歐羅巴人は宗敎を信ずると信ぜぬとに關らず九分九厘迄は子供の時に敎へを聞いてゐるから、西洋に於ては此の誓約は當然だが、日本では六ヶ敷い。若し日本に斯ういふものが出來るとすれば、此個條は問題と思ふが、併し心持は、斯ういふ心持は誰でも持つ事が必要であらうと思ふ。といふのは男女間の關係を徹底的に立派にするには、宗敎の力を借らないで行けるかどうか、問題である。假に行け

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

るとしても、それがあれば餘程よく行けるのは明かであらう。必ずしも何んといふ宗教でなくてならぬとは云はぬ。

我々は行爲だけを愼む、といふ事は比較的出來易い。言葉を愼む事も出來易い。併し不潔なる關係を心にも思はないといふ事は、多數の人には出來ない。そこになると我々が常に神に祈つて如何なる場所をも又心の奧底をも見て居られる神に恥ぢないといふ事は、神に祈る＝祈るといふ事は何も言葉に現はさないでもいゝ＝神に接近してゐるといふ心持が、私共に取つて大切な事でないかと思ふ。

□教育家、醫師宗教家に望む

第三は禁酒であるが、之は誰にも了解の出來る事である。誰が考へても男女間の不潔なる行爲の三分の一は酒が手傳つて居るのは明かであらう。殊に始めて遊廓などに通ふ人は一種の恐れを懷くものであるから。假令友に誘はれて行くにしても、酒の力を借るのは普通で、三分の一は酒の爲めに墮落せしめられる。して見ると禁酒と貞潔とは大に關係がある譯て、廓淸會は男女間の貞操を守ると共に酒を禁守してゐる人が大多數である。

世間には酒を飮んでも一個人としては少しも亂れない人がある。さういふ人は別段身心に害を及ぼさぬから差支ないと考へるが、それは一個人の事で、個人だけの事を考へるから別に禁酒の事を大切に思はぬが、私共はいつでも社會から觀察する。酒の問題も國家とか社會とかいふものにどういふ影響を與へるかといふ事になれば、どんな大膽な人でも自分に害がないから社會にも害がないといふ人はあるまいと思ふ。實際社會の不幸人類の墮落は酒が手傳つてゐるのは明かで、殊に私共の取扱ふ男女問題に非常な關係を有してゐる事を思へば、どうしても禁酒を以て誓約の一條に加ふるの必要を生じて來るに相違ない。

今日私共が一番必要だと思ふのは、宗教家と教育家と醫師とが、各其の集會の席に於て憚らず酒を飮んでゐるといふのは矛盾の甚しきものである。自分の家で少し飮むといふ事まで今日矢釜しく云ひ度くはないが、集會の席、而も純粹に教育家だけの會合、宗教家だけの會合、醫師だけの會合に於て、酒杯をあげるといふ事は何たる不心得であらうか。私は醫師位酒の害を明瞭に知つてゐる者はない筈だと思ふ。次にまた教育家宗教家にして子弟の爲めに酒の害惡なる事を知らぬ者はないと思ふ。よし自分は飮んでも、自分の子供は飮んだくれにしたくないに相違ない此の二つの階級の人達が、自分共が集まる時は平氣で公けに飮むといふ事は實に不都合千萬である。習慣で平氣になつてはゐるが、合理的に考へたならば、三階級の人は卒先して禁酒し、社會に示す處なくてはならぬ。

以上述ぶる如く、將來廓淸會に於てはなるべく多く青年男女を募集して三ヶ條の誓約をなし、貞操を嚴守して行く事にしたいと思ふ。若し廓淸會で具合が惡いといふなら、日本でも名譽同盟を組織して此趣意で青年男女を團結せしめるのは我國に於ても必要な事ではあるまいかと思ふ。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

大戰亂と廓清運動（四）

□□佛國戰時の廓清運動□□

廓清會理事 油谷治郎七

一

一九一七年四月、ゼネヴアにて發行せられたるブレチン・アボリショニストに「佛國に於ける道德事情の概觀」と題する長文がある、中に曰く。

『大戰勃發の以前に在ては、男女間の不純潔の氣分を激發するごときものは諸方面に夥しく存在してゐた。官權は街上に於ける不品行の行爲や、或種の店頭に揭ぐる不潔なる繪畫や、或種の劇場に演ぜられる淫猥なる劇や踊りなどを禁止すべく干涉することは稀であつた。「道德は國家の關するところでない」と政府の官吏の多くは思ふてゐるもの丶如く思はれた。然れども開戰後是は全く一變した。政府は不安を感じたのである。徵募に應じて入營する軍人の多くは花柳病を患ひて戰鬪に堪ゆる力を缺き、又其他のものも入營後暫くにして此病毒に冒されて治療を要するものとなつた。最初斯くの如く戰鬪力を缺くこと少々でなかつた、加之、多くの兵士は病毒のために戰地より歸された。戰線の後方には淫蕩放逸殆んど言語に絕した。

是に於てか醫師も宗教家も宗教團體も公衆道德の爲に盡す諸種の協會も、且つ驚き且つ怖れざるを得ざるやうになつた。以前には一言も是に關して口を開かずして放任してゐたが、今や彼等は叫んで曰く、「軍人にして其性慾の爲に動かされるものは正に國家を賊するものである」と、又曰く「貞潔を嘲笑するは唯愚者のみ」と。彼等は軍人の威嚴と名譽の感念に訴ふ。彼等は軍人に告げて、若し軍人にして病毒に冒されなば、直ちに之を其妻にも感染せしむるに至るべく、又其妻が子を産まんとき、其子孫をも汚すに至るものであることを理解せしむるに努めてゐる。巴里の花柳病專門大家ゴウシヤーとビザーの兩醫學博士は、一九一六年十二月二十六日佛國醫學院の報告書のうちに述べて曰く、「歐洲大戰の發せる前日頃にあつては、巴里の三千名の患者のうち百分十は黴毒患者であつたが、開戰後十六ヶ月間に於て、此割合は百分十六と三分二に上つた、更に後の八ヶ月間には、二千三百名の患者の百分二十五に增した。而して其八ヶ月間に黴毒患者となつた二百二十二名の婦人のうち、其三分二は已婚婦人であつて、其多くは其夫たるものが戰地より少時の閑を得て歸宅せ

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

るうちに感染せるものであると云ふ、ゴウシャー博士は淋毒に冒されたる男女の數の更に夥しきことを示してある。出征軍人は克己力の乏しきがために士氣と體力を頽廢せしむるのみでなく、家庭にまで其猛烈なる病毒を持ち歸りて、國民元氣の根本を腐爛し了る、吁何たる悲慘ぞや。政府當路者も、宗教道德を以て任ずるものも、國民衞生の爲に慮るものも皆共に廓清の急務を感ずるに至れりと云ふ、は當然のことである。

二

佛國の公娼制度は一九〇六年議會の任命せる遊娼制度調査委員の永き且つ徹底せる調査の結果否認せられたるもので、同國花柳病專問の醫學大家も其社會衞生上有害であることを叫んでゐるのである。戰爭の勃發するや、かのジョッフル將軍は凡て國境に近き都市に於ける娼家を閉鎖すべき命令を發したのは、さすがに名將軍と云はねばならぬ。然かも舊式の公娼有效說は尙ほ陸軍部內に力あるものゝ如く、一九一八年三月十三日陸軍省は出征軍團の將軍に令し、(第四局第一九三六號)聯合軍の軍人の花柳病毒豫防策として、軍隊の屯する附近の公娼を衞生的に注意深く取締り、私娼を嚴重に禁絶するやうにすべきことを以てし、其陣營附近の公娼の數を調べること及び皆無なるところは其地方の官吏と協議して新に娼家を建設すべきことを命じた。是を耳にしたる佛國婦人團は會頭ジュリエ●シーグフリードの名を以て銳き抗議書を陸軍當局に呈し、斯る文書の存するは更に佛國婦人と家族を侮辱するものである、道德的の見地よりすれば、娼家を公認して國家が之を取締るは國家が淫蕩を奬勵するもので、衞生的の見地よりすれば全く詐僞である。吾等婦人も等しく此病毒の減殺を圖るものであるが、他の國々に於ては今考へられるよりも一層立派で又有效なる方法を以て此病毒を防ぎ又減殺してゐるではないかと政府に迫つた。而して婦人參政權同盟の常議員も幹事ブルシュウィクの名に於て、陸軍省と內務省に强固なる抗議を申込んだ。而して一方公娼增設に反對の運動をしてゐる。其結果に關しては未だ報道に接せずといへども、英米兩國の出征軍の附近には娼家の增設は全く禁ぜられてゐるから、婦人團の活動は功を奏するであらふと思はれる米軍の佛國にあるものゝ如きは、パーシング將軍の嚴令の下に、軍人の娼婦に近づくを禁じ、軍營の附近にある都會の娼家の在るところには、米國兵士の立番するものあり、嚴しく其町に出入するさへも許さずとは、我慰問使の一人が直接目擊せるところを以て余に語れるところである。

三

佛國ソンム縣のカイヨウは人口四千五百を含める海濱の一小市で、英軍負傷兵七千餘人の療養營所に近きところである一九一七年八月一日を以て海に面せる大通りのホテル、ベルヴュウを變じて娼樓となし、十七名の若き娼婦を置いた。市の名望ある人々は市の道義を亂し子女の敎育を妨ぐるものなりとて憤然として市長に抗議した。市長は市長及び市會の關せざるところで、佛國陸軍の權內にありと答へた、事實は佛

英兩國陸軍の關するところであつた。同年十月十八日同市の一人より事情を具陳して萬國廢娼同盟の佛國支部長ツ、モルシエに訴へた。直ちに其幹事であり又佛國婦人團主事たるマダム、アヴリールより英國の廓清會本部と云ふべき道德社會衞生協會に事情を通じた。協會は主事ドクトル、ヘレンウイルソンの名を以て事情を具へたる覺書を英國陸軍省に呈し反省を求めた。陸軍省は明答を與へない。即ち協會は一九一八年一月を以て其事實を公表して輿論の喚起につとめた。倫敦監督やリンコーンのデーンは國立教會の意見を纏め、自由派教會々議も、カトリック教派も、道德及社會改善の諸協會も議會と陸軍省に廻り、同年三月一日道德及社會衞生協會は大集會を開いて抗議の叫を高めた。デーリー、ニュース、マンチエスター、ガーデアン、及びネーションの記者は其紙上に於て盛んに聲援を與へられた。同三月二十日陸軍次官はカイヨウのみならず佛國に於ける英國軍營に近き娼家は全く閉鎖せしむる旨を公示するに至つた。斯くの如くして英軍々規の振肅を加へると共に兵士の道德的及衞生的保護の途に一歩を進めたのみならず、引いては佛國軍人に及ぼせる影響は少々てない。

四

佛國婦人の間に於ける勢力ある團體である佛國婦人團（コンサイユ、ナショナル、デ、フエム）及び佛國婦人參政權期成同盟はフエデラション、ナショナールや萬國廢娼協會佛國支部などの會員と協力して、戰場にある佛國兵士を慰撫獎勵して酒色の慾情に勝たしめんと努めてゐる。此運動の初に於て、即ち一九一五年四月ソルボーヌに於て大會を開き、廣く國民に訴へた、而して醫師も科學者も聲援を與へられて先づ禁酒令の發布を政府に迫つた。其主張は直ちに全く實行せられなかつたが部分的の禁酒令は發せらるゝに至つた。此運動の一の結晶せるものは、フォイア、デユ、ソルダー（軍人ホーム）の建設である。平素でも營養に富める食物と、酒精を含まぬ飲料を供し、新聞雜誌書兵用具音樂遊戯等の設備を完全にし、快活なる妙齡婦人が晴々とした氣分を以て軍人の接待につとめてゐる。戰場に於けるオーシスたる此樂園は兵士の駐屯せる各市に設けられて、一面には軍人の不潔なる慾情に支配せらるゝを防ぎ、一面には積極的に其心身に新しき元氣を鼓舞してゐる。婦人團は戰場にある兵士の爲めに計るのみでなく、四ケ月に一回歸休する兵士の爲に家庭を有するものは、勇氣と節操と溫情とを以て慰藉と獎勵とを與ふるにつとむるやうにし家庭のない兵士には其家庭に代つて溫き待遇を與ふることに努力してゐる。（此他戰時に於ける佛國婦人の感嘆すべき活動は英國十九世紀四九六號に見ゆるモード女史の文を參照せよ）

暗き夜の巴里に彷徨する婦人を見て佛國婦人の一般と思ふは非常なる誤解である。今や佛國婦人は祖國の危急に面して非常なる宗教心と愛國心とに燃へてゐる。血と火の洗禮を受けつゝある佛國婦人は新しき佛國を産むであらふ。

（大正七、一〇、二五）

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

大戰に現はれたる緊張せる風紀

聯合軍慰問使
廓淸會理事　山本邦之助

◇大戰に際して米國の最深き＝注意を拂つてゐる事は何か◇

今回の大戰に於て、各國とも非常に注意を拂つてゐる一事は、軍隊の風紀問題である。その中でも米國の如きは、世界に於て風紀上健全無比なる軍隊を作ることを以て、何よりも緊要なることにして、且つ之を米國としての一種の矜誇としてゐる。數百萬の新しき軍隊を收容する爲に、諸方に兵舍を建設するのに、悉く都會の地を離ること丶五哩以外に置いてゐる。こは都市の惡感化を避ける爲めであつて、營舍の附近には酒屋醜業婦を一切寄せ付けぬことに嚴禁してある。或る南部の一都市に於て、其市中に惡き婦人が巧に出沒する危險ありといふ說が、專ら喧傳された。そこで其市に駐在の軍司令官から嚴重にその市の廓淸を促したけれども、その市は廓淸の實蹟を擧げることが出來なかつた、此に於て軍司令官は命令を發して、軍人をして一步も其都市に足を入れてはならぬことにした爲に、その都市の景氣に忽ち大恐慌を來した。依て市長等は俄に協議して、廓淸矯風の實を擧げることにした。

それから紐育のホテル組合では、カーキ服を着けた軍人には一切酒類を出さぬことに決定してゐる。隨つて此種の嚴肅を保たせる代りには、一方に於て軍人の寂寞を慰める施設がなくてはならぬ。依て靑年會、天主教、救世軍、その他の團體は協力して、軍隊慰問に凡ゆる努力を獻げ、その主催によりて、各軍營内に自由劇場を設け、兵士が皆愉快に疲勞を慰すことのできるやうに備へをして居る。女子靑年會も各軍營内に婦人休憩所を設けて、兵士に面會に來る母や姉妹や友人を招きて、面會出來るやうに便宜を與へ、或は食事までも共に出來るやうに世話焼いてゐる。そして其處に立働くは皆社會に地位あり名望ある貴婦人が多いのである。米國の海軍大臣ダニエル卿は、海軍出征軍人に對して「卿等は鐵砲が眞直に射らるゝ如く、卿等の品性を眞直に持ち給へ、品行を曲げ亂して惡しき病氣にかゝり、床に臥したりすれば、愛國者ではなくして、賣國者である」との告別演說をしたことが、一般に大に注意された。軍人は家庭を出てゝ入營し、戰地にある時も、船中にある時も、塹壕生活の時も、品行を正しく健全なる心身を保つことのできるやう、靑年會などの團體が、よく注意し、よく保護して、後に之を其の家庭にまで引渡さねばならぬ責任あるものと信じてゐる。其樣に軍人の心身を

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

大切に保護せねばならぬ理由は、やがて戰地より歸還する軍人によつて、將來の米國が建設されるからである。

◇英國では青年會事業も＝
＝多く婦人の手で經營される◇

英國に於ても、開戰當時から青年會や救世軍やその他の宗教團體が、皆共に軍人のために、各種の慰安方法を講じて其品性を毀損させぬ樣に、道徳上の注意を拂つてゐることは非常なものである。尤も最初の間は、酒に醉つて、往來に仆れてゐるやうな軍人を見たこともあつたが、今は其の樣な軍人は全く跡を絕つて一人も見ない。軍人が品行を保つことにつきて、立派な氣高い婦人の注意努力が最も與つて力あるのである。英國では青年會などに働く男子は、皆戰地へ赴いて居る。その爲に男子の青年會にあつて働いてゐるのは婦人である。良家の優しい子女、堂々たる貴婦人達が、皆特志を以て、青年會に來て、男子に代りて慰問事業その他の事を處理して居る。且つ相當の家庭に於ては、印度、加奈太、濠洲、新西蘭、その他植民地より來る軍人を歡迎して、愉快の裡に數日の休養を取らしめることに力を致してゐる。又青年會の事業として、特に感心すべきは、戰地から負傷した人の通知を受けると、それを直に父兄に通知する、家庭から人が來ると迎に出る、渡航の便を計る、面會の勞を執ることなど、實に用意周到なものである。又廢兵のためには勞働者と提携して、職業の紹介に努める各種の商店、工場より缺員の通知をうけて、適當な人を送る。雇主の方にては、手足の完全なものよりも、廢兵を先に雇入れることに定めてある。尙ほ倫敦は各國兵士が、休養のために集つて來る場所ゆゑに、隨分危險な誘惑も多い。いろ〳〵の惡い婦人が出沒して居る。然し之に對して、危險を防ぐべき方法を講じて、毫も怠りがないから、決して軍人を頽廢に陷らせる心配はない。

◇佛國に於ける芝居舞踏場撤廢と＝
＝羅馬に於ける獨探婦人◇

佛國は戰爭の爲に、最多くの困難を嘗め、最多く窮乏を凌ぎつゝある。さうかといへば一面に於て甚だ危險な誘惑の多い淵藪のやうにも見做される。それは各國兵士の集合地にして國內は恰も人種の展覽會の如くであるから、隨てその混雜の間から、酒や女の危險なる誘惑が、絕えず發生しやうとするからである。然し之に對して軍隊の規律を嚴重に守らすやうに、充分なる注意と警戒とを盡す方法も、亦普く行渡つて居る。英米に於けると同じく、青年會やその他の團體が、軍人の心身を健全に保護する爲に、日夜苦心經營する樣子も實に敬服の外ないことである。唯だ由來佛國では、婦人に對する觀念が、餘り嚴肅でないといふ所から、動もすれば不注意に看過される事情もないではない。佛國の或る地方に於てのことである。米國軍人が其處に二萬人餘り集つてゐた。さうすると或る興行師が政府の許可を得て、そこに芝居や舞踏場を作る設備を作らうとした、ところが米國軍隊の司令官が直に之に對して抗議を申込み、さうして間もなくその舞臺を撤廢さして了つた。以て一般の狀態を推知することができる。

伊太利にあつた時、風敎上に關することとて、大に驚いた一の事實がある。それは何人も知る如く羅馬の都會へは諸國の

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

人々が今日でも集るゆゑに、風儀の惡い婦人の多數出入することも、他所より一層甚しいのは免かれぬことであるが、その見苦しい業をなす一人の婦人の中に獨探があつて、旅客を相手にして遊ぶ間に、何か軍事上の參考になるやうな書類を竊に奪つたり、或は旅行劵を竊に取上げて、其旅客をして何處へも往かれぬやうな目に逢はすのである。疑もなく獨探である。獨乙が斯る婦人をまで軍人に使用してゐることを考へて、呆れざるを得なかつた。伊太利の政府では、各國青年會が風紀上に活動するのを大に德として、青年會の者は、國内何處でも無賃で通過することができる樣になつてゐる。

◇米國に於ける禁酒法案と＝戰爭結婚と風紀問題の關係◇

尙附加へて申したきは、米國あたりでは戰爭結婚といつて戰地へ赴くものは大低皆結婚して出懸ける。それは結婚すれば配偶者には軍人の俸給の三分の一を支給することになるからである。斯樣に結婚を奬勵するのに、一は品行を愼み、風紀を嚴重に保たしめたい爲めである。それは今一つ米國では禁酒法案を可決して、七年以内に、普く全國に及ぼす考であつたが、更に戰時禁酒として、來年七月から全國に向つて實行することゝなり、上院を通過する筈である。禁酒の結果は身體が強くなり、品行が修り、仕事がよく出來るやうになり、儉約ができて貯金が增すから、之に就いて一國の上から考へてみると、なか〳〵大なる關係のあることである。要するに戰爭は劒火の戰爭であるのみでなく、食料の戰爭であるのみでなく、實に品行の戰爭であつて、戰爭に勝つても、品行風紀の上で失敗すれば、將來世界に立てゆくことが出來ぬといふことは、全體に普く深く刻みつけられて居る注意警戒の主なるものである。

婦人の家庭衞生に於ける自覺

女子醫學專門學校長　吉岡彌生

日本婦人は概していへば、謙遜にして高ぶらぬ德に富んで居ますけれども、自己の責任を感ずることが少いといふ點あるは誰も拒むことのできぬ所と思はれます。主婦の心得といへば、家政や育兒や家の職業の手傳など、なか〳〵複雜にして單純ではありませぬが、茲では主婦として夫を煩はさぬ心掛に就いて、聊か感ずるところを申して見たいのであります。家庭に病人の出來た場合に主婦として如何に心得べきかといふに、隨分世間では誤つた事があると感じられます。大抵醫者は、午前は宅診、午後は往診といふ事に定めてゐますが、そこで例へば子供が朝から熱が出たといふ場合に、その家から午後の五時頃にもなつてから漸く來て下さるといふ使が來る。何ういふ譯で早くお呼びにならなかつたかといへば、家の主人が外出から歸つて來るのを待つて相談の上で、お招き申したといふやうな次第である。甚しきは左程危篤でもない病人であるに、態々主人の勤先へ電報打つて、相談してそれから何處の醫者を呼ぶかに定める。斯ういふ風では外に働く夫は、片時も安心できぬ。何時も家事を顧慮せねばならぬ。これでは不可いから主婦としては、家庭醫を定めて置く必要がある。そして子供が何病に罹からうと、先づその掛り附けの醫者に診察してもらつて、その醫者の説に從つて專門の醫者を選ぶ必要があるなら其通りにするが安全である。さうすれば態々外に働く夫を煩はすには及ばぬ。

子供の養育に就ても、世間では餘りに消極的に流るゝ點がある。寒いからといつて直ぐ厚著をさして、皮膚を薄弱に風引き易い體質にする、腹が空いたらうといつて急に多量の食料を與へて胃腸を惡くする。なぜ定めた分量より多く食べさしたのですかといふと、泣いて可哀いさうであつたからといふ。慈愛を以て子供を育てることは大切であるが、眼前の愛に溺れた育てやうは、その結果は甚だ惡い。

一番に多くあつて、一番に困るのは [illegible]

[illegible] 間も饑餓の感を覺えさして置くこの間飢餓を忍ばしむる苦しさは他人である看護婦でも、なか〳〵辛抱し兼ねる。[illegible]

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

婦人職業問題研究

法學博士　山脇　玄

□英國婦人の戰時活動

大正三年六月廿八日、墺國皇太子フランツ、フェルジナンド殿下並に同妃殿下が、ボスニヤ洲の首都サラエーボに於て、セルビヤ兇徒の手にかゝり、無殘の横死を遊ばされた。これが原因で兩國が七月廿八日に宣戰を布告してから今日まで、滿四年以上同盟側、聯合側共に必死となりて戰を續けて居るが、勝敗未だ何らとも決せぬのである。其間婦人が男子に代りて、軍用品の作製、交通機關の運轉、その他諸般の事業に競つて努力して居るばかりでなく、國家の經濟や、國防の上にも、考を深く將來に馳せて、非常なる貢献を爲しつゝあるのである。獨乙や露國や佛國に關しては、正確なることは分らないが、最近英國政府の發表した統計によると、現在家庭の外に出て働いて居る英國婦人の數は、三百八十一萬九千人で、内七十六萬六千人は出征した男子に代りて一般社會的の事業に働き、五十萬人は新に彈藥製造所に出るものであるといふ。特に昨春以來參戰した米國は、勁敵獨乙の軍國主義を征服して、民主主義に改めさせねば一歩も退かざる勢を以て、盛んに兵力、金力、軍用品を、西部戰線に供給して、大に聯合側の士氣を鼓舞して居る。加ふるに、婦人も亦揮つて後援事業はいふに及ばず、軍事、經濟、食糧問題にこれ日も足らず西奔東走して目醒しき働をなして居る。今やさしものカイゼルも國内の講和論に制せられてか、ウヰルソン大統領に向つて講和の端緒を開かんとするに至つたけれども未だなか〳〵容易に傾聽される譯にゆくまい。然るに交戰國たる我國の婦人は何うであるか、現在の戰爭が、何うなつて居るかも御存じ無いもの多く、戰爭開始以來、米國が東洋支那方面に商業上の活動を始め、陸海軍を增設し、將來或る目的を東洋に於て達せんとの野心勃々たるものあるをも知らず、武陵桃源の夢を貪つて居るのか、將に死んで居るのか、今日まで其の反響の何等具體的に人目に映ずるもののなきは、女子教育の方針を誤れる結果とはいふものゝ、實に慨歎に堪へぬことである。

□生活法の整理工夫

今日の場合、我國婦人も蹶然起つて何等か國家社會のために働いて、國力充實の一助となる覺悟がなくてはならぬではあるまいか、元來我國民は男女共に秩序心經濟心に餘程缺け

て居る。随つて無駄な正味のない生活をしてゐる。されば一般に生活法を整理して、物質と時間と勞力とを經濟的に使用することにつきては、大に工夫の餘地があると思ふ。ところて大規模を以て社會生活の大部分を一時に改造するやうなことは容易てないけれども、然し個人的に各自の經濟生活を整頓することは實行し易いだけに、その効果を社會的に現はれることも亦決して少くないであらう。

物質を無意味に費さぬと、日常生活を規律正しくして、時間を無意味に費さぬ樣にすることは、個人の心身の健全を圖る爲にも、事業の進歩を計る爲にも、社會全體の生活を健全ならしむる爲にも、凡て有益なる事である。休息なら休息讀書なら讀書、談話なら談話と、何んでも凡て時間に價値を有たせる工夫が肝要てある。何をするてもなく、空しく費す時間は、一分たりとも無いやうにしたいのである。

□内外婦人の職業状態

抑々往時の經濟狀態を觀るに、婦人は一般に日用品の重なる生産者にして、自家用の物品は自ら之を生産し、男子は之を消費したのである。卽ち婦人の手によりて、麥粉はパンとなり、羊毛は着物となつた。然るに十七八世紀以來、自然科學の効興、機械の發明は、この狀態を一變して、婦人は男子と共に消費者となり、家庭的手工的の職業は、機械的工場的の工業となつた。さあ今まで持てゐたものを奪れたのだから主婦たるものは、何れもあつけらかんとして、一時度を失つた體たらくて、爲すとも無く、手持ち無沙汰に困つたもの丶、其處は歐洲婦人である。何時までも意氣地なき生活を送るとはしない。かうしてゐてはならないといふ自覺を以て、忽ち新なる活動の新生面を開拓すべく進んだのが、卽ち教育、衞生、兒童教育等の社會事業である。又十九世紀のヘデーランゲ女史の首唱によりて行はれたる新教育の影響で、女子は「人」として、女子それ自身のために教育されねばならぬとの方針にて、最高教育を受け、同時に高尚なる職業にも就くこと丶なり、其職業の範圍は、家庭外に擴大され、今日に於ては歐米婦人は如何なる職業たりとも、其資格と素養とだにあらば、從事されぬものなきに至つた。飜つて我國婦人の狀態を見るに、下層社會は歐米に實例を見ぬほど、多數が勞働に從事してゐる。これ我國產物は謂ゆる纖維工業と稱して、生絲、織物、紡績、編物などてあるから、婦人の織手に適するのである。それ故に工業全體に於ては、女子は男子の七割弱を占め、纖維工業のみにては八割、紡績になると九割といふ多數を示してゐる。然るに上中流婦人は、著しく減少せるに應用する結果、從前より家内の仕事は、文明の利益を家庭にも關らず、尚且つ互に家内に蟄居して、飽食暖衣何事をも爲さゞるは、餘り暢氣の沙汰てはなからうか、これ或は職業を卑しむといふ東洋思想に囚はれて居るのてはあるまいか、然しながらそは舊弊の思想たるを免かれぬ。勞働は神聖なりといふ深遠なる意義を有つとに早く目醒めねばならぬ。

□職業の有つ貴き意義

凡て職業は、獨乙語にて廣き意味に解釋せられ、天より

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

或る業務に就くやう使命されることとである。女子結婚して、妻となり、主婦となり、母となりて、其勤めを盡すのも、又職業といふことを得て、頗る神聖なる意義を含んでゐる。佛國革命當時の繪畫の大家のミレーの傑作の田野の晩鐘に描かれた農家の夫婦の夕暮の鐘の音を聽くと共に、鋤鍬を收めて、靜に瞑目し、やがて樂しく手を携へて、今日了りぬ、主に事へて、憩ひを告ぐる夕の鐘と歌ひながら、家路に歸る其様は、神の命ずる一日の勞働を終りて、神に感謝する所を描いたのである。

米國の富豪カーネギーは幼少の折、常に母の膝の上に、彼のバイロンの勞働の歌をきかされ、それが深く心臟に染み込んだ事が、彼生涯の事業を成功さした一大原因である。其の歌とは勞働は神聖である、人間は働くほど愉快はない、人間の働くのは天職であるといふのである。そこで彼は人を使ふ秘訣として、三ケ條を定めた。其の第一は其の使用人の手の務、第二は頭の務、第三は心の務である。此の第三の心の務を盡さしむるといふことが、卽ち事業成功の基である。つまり人として誠心誠意其の主人のために盡さんとする心を起さしむるのである。ジョン、スチウワルト、ミルは職業に關して、男女同權を論ずる中に、女子が經濟上獨立すれば、古來よりの從屬の地位に甘ぜぬやうになるから、男子は成るべく自分の領分内に入り込まぬやうに防禦するのである云々との言葉があるが、其意は職業は、女子の獨立自尊心を發揮する力があるから、男子が我儘勝手に女子を統御することができなくなるといふので忌み嫌ふのであるといふにあらうか。

又德義上から經濟的獨立の功用を稱贊して曰く、勞働して收入を得る女子は男子が賃銀を抑壓する結果、從來男子のみにて得た賃銀より以上のものを得る能はざるに至るとも、女子が糊口のため、全く男子に賴るに及ばぬといふ其の狀態こそ金錢を以て量ることのできぬ、完全なる代價となるのである、云々。其意は女子は經濟的に獨立する素養ありて、初めて人格を全うすることができるのであるとの趣旨に外ならぬであらう。

又近時獨乙の駐露大使に任ぜられしヘルフェリヒ博士は、獨乙富强論の内容は、つまり國の富を創造し、且つ之を增加する力は、下は勞働者の手技的勞働より、上は學者の純粹なる智識的勞働に至るまで勞働であるといふに歸着し、其意は勞働は國家富强の原動力なりといふに同じであらう。今日は紐育婦人記者ミス、エマーソンも斯ういつてゐる。職業を糊口を凌ぐ爲めといふよりも、自己の道を開く尊い意味をもつことゝして、寧ろ徒食する婦人を笑ふ傾がある。

□職業と人格並に家庭

人がこの世に天與の本能を發揮する方法として敎育するものがある。敎育の眼目とすべき所は、第一に人の人たる資格卽ち人格を作るにあつて、或る職業に關する修養をなすは、第二次に屬することとである。何んとなれば職業なるものは、人格が外面に現はれる形體に過ぎないからである。それ故に職業を以て衣食の料を得る方法とのみ解するは間違て、職業はそれ自身に目的を有つてゐるのである。換言すれは、職業

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

は人間を德義上完全にするといふ意味て、報酬は自然これに附帶して來るものてある。世の進歩も職業も次第に分れて、多種多樣となり、益々向上發展するのてある。個人が出來るだけ幸福なる生活を送るには、繪畫音樂などの高尚なるものより、下つて煙突掃除に至るまで、各種の職業が成立して、何れも人の需用を充すのてあつて、其の一を闕けば、直に不自由を感せねばならぬ。されば職業の貴賤の別は無いことになるのてある。此の如く職業決して衣食のためのみてはない。勞働決して手技的のもののみてはない。人格に應じ、知識に應じて如何なる職業にも從事し得られる筈てある。

彼の奈翁一世の政治に反對したスタイル夫人、奴隷解放の恩人たるストー夫人、博愛の化身たるナイチンゲル孃、公娼廢止を以て知られだるバットラ夫人の如き、我國ても簾中に政治を聽いた平政子、貞操の權化たる細川忠興夫人の如き、之等の偉大なる事業、粲然たる光輝は、盡くその人格の發現に外ならぬ。人格と素養とさへあれば、事と時と場所とを問はず、その識業、その事業、その勞働をして、神聖尊貴ならしむることができるのてある。

故に先づ國家の分子たる家庭より引締めて、正味ある生活を立るやうにするが焦眉の急てある。然らば家庭を、引締める方法は、何んてあるかといへば、家庭の改良、卽ち衣食住を改良して、時間と剩餘とを得るに外ならぬのてある。その得たる剩餘を以て、材料を買入れ、其の得たる時間に於て、何なりと手藝をなし、其の作製品は取纏めて、海外に輸出すれば、一廉の國産となりて國の富みを增し、隨て國力充實となる。其工賃は貯へ置きて、いざといふ場合の費用に充つるにあるので、別に難ケしいことても何んてもないから、我上中流の婦人が、此際大に覺醒して勞働を賤とする舊習を打破し、眞の意味に於ける職業の爲に大に活働されんことを希望する。

他の方面から見れば、近時頻々として新聞雜誌に現はれる家庭內に起つた悲慘なる出來事を讀む每に、痛切に感ぜられることは、女子に經濟的に獨立するだけの素養のなきことてある。女子にいざといへば、我一身を支へるだけの自信あれば、何んとかこれを救ふ工夫もあるべく、又無理なる我慢をして、嫁した先に止まるにも及ぶまい。我國現今のやうな、結婚制度の下にありては、婦人は昔のやうに、生涯の苦も樂も凡て他人任せといふやうな憫然たる境涯てある。婦人がこの境涯から免れようとするには、勢ひ經濟的婦人問題の起つて來るのは、當然の譯てある。女子が自分の生活費を自分の手て求むることは、まだ完全に女子の人格を認めて居ない、我國の男子の我儘なる壓制から免かれる第一歩てある。人間の生涯はいつ何んなことが無いともいはれない。夫に先立たれて子供を抱き、幾んど策盡きて、親戚友人の同情にて、僅に其日を送る例も少くない。その扶助がいつまでも續けられることてあるまいし、又さういふ親戚友人の無いものも多いことてあらう。斯る場合に勞働社會の女子てあれば、工業會社に雇はるるとか、或は他の然るべき方面に働き場所を見出すことは左まて困難てないが、上中流の婦人は然うはいかぬ假令家事は相當に治めることを得るも、それ以外に特別の手

腕ない身は、何なりと職業に從事して、自分の生活費を儲け出すことは容易ではない。

□上中流婦人蹶起せよ

恰も好し、今日社會各種の方面に、女子を要求して居る時代である。教育界に於ける女子の教員を初めとして、郵便電信及鐵道の事務に、或は全國各種の大小商店にありても、盛んに女子を採用し尊重するやうになつて來たから、勢ひこれから其需用に應ずる爲め、女子職業學校等、諸種の實業學校が多數設立を見ることてあらう。人間は決して學問ばかりて立派になれるものてない。實際の學問は寧ろ學校を出てから何事かにつき働く中に多くは出來るもので、實地につきて研究したことは、これが直に各自の血となり肉となる尊き學問なのてあることをよく合點してかゝらねばならぬ。此點からいつて見ても徒に最高の學府に入ることを以て、唯一の出世の道と心得ず、各自の境遇に顧みて、無理に勉强せずとも、高女等學校を了へたならば早く簡易なる職業學校に入りて、一兩年の修養を積み、成るべく早く社會に出て、獨立の方法を講ずるのが、一身の上からいつても、又國家社會の上から見ても、非常に得策なことかと思ふ。斯ういふ風にしたならば、一方に於ては徒に青年男女を都會に集中する弊を漸次に矯正することができ、それと同時に又農村の子女であれば、其地方に於ける農業の改良、或は蠶業地ならば養蠶に力を注ぐとか、若しそれ漁村ならば罐詰などに從事するとか、その地方〳〵に於て、爲さねばならぬ仕事があるのだから、よく此の點を考へて、先づ各自の地方に於ける事業を振興することに盡力せねばならぬのてある。そして事業は悉くこれ如何なるものと雖も、その人の人格の顯はれてあるといふことは、前に述べた如くてあるから、深く之を念頭に置いて一刻も修養を怠らぬが最肝要てある。

終に一言すべきは外でもない。獨逸の帝室ては、皇太子は必らず普通の大學を卒業すると共に、手に職を覺えなければならぬ家憲になつてゐる。又獨乙のルイゼ皇后の如きも、獨逸が奈翁一世に攻められた時てはあるけれども、靴まで自分て修理遊ばされたといふことてある。これを思ひ、かれを思へば、勞働は決して賤しむべきものてはないことを、毫も疑ふべき餘地なきものてあれば、此國家多事の時、返す返すも我國上中流婦人の蹶起と奮勵とを切望して止まぬ次第てある。

◇この淪落の女　北鮮航路の汽船には、必らず一組か二組の賣春婦の乘船して居ないことは無いさうてある。洗晒の木綿着や浦鹽吏秒の支那服に腐爛した肉をつゝんで、北鮮の田舍や間島及琿春地方て酌婦と稱して、毎度怪しう出沒するのが是てあるさうだ。彼等も人の子だ。彼等にも淸い愛情の美しいロマンチツクな戀物語の有りさうなものを。何うして一夜僅に三十五吊て、苦力や馬賊の野獸に等しい男の巨腕に抱かれて、その尊き肉を腐らし、その淸き血を汚して平氣なんてあらう。吾等はこんな淪落の女を、一種の輸出品の如く、盛んに海外に出すこの惡弊を芟除するに無策無能なる今の政治と敎育と宗敎とに對して、吾等は咀呪の聲を揚げずに居られない。そして上中流の敎育ある婦人が、こうした狀態を何んと見てゐるのか聞いてみたい。

◇花柳界の景氣　三河屋でも、花月ても、二週間位前から申込んで置かれば宴會ができぬ。三河屋ては十圓の會費はおかつたるい。柳橋の彌生ては宴會餘興料とも一人二十圓以上。新橋も勿論高くて忙しい。農商務省前の待合トンネル横丁は、夜になると自動車の客が雲集して、二十臺、三十臺ズラリと並ぶとは珍しくないさうだ。何處ても不意の客はお斷り、藝妓は夕方出れば、座敷から座敷へ廻つて、一時間が精々、大抵三十分位、全てお金を集めに廻る樣なものだといふ。交戰國の一として盛衰消長の危機に際し乍ら、遊女ならてば夜の明けぬ國。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

一元的生活

三輪田女學校長
廓清會評議員　三輪田元道

◇總ての事業の基礎◇

漠然と生活といふ言葉を用るときは、何人にも疑義を挾む餘地が無いやうに見ゆるけれども、その實生活の意義及內容は、千差萬別にして、人と時代とにより、とても一定することは能きない。即ち吾人の生活は物に重きを措くべきか、將心に重きを措くべきか、甚だ不明瞭である。隨て生活に物的生活と心的生活の區別がある。ところが世の人々は生活問題といへば、直に物的生活を指すやうである。これに反して、宗教及道德などを說く人々は、心的生活を必要視するのは當然である。依て生活は物的と心的との二元となるが、そこで、われ〳〵に其の二元の孰れに重きを措くべきかといふ問題が起つて來る。恐らく今日の社會問題は物的生活を重大視する爲に起るのであらう。さりとて物的方面を離れて、心的生活のみを取扱ふことは不可能であるから。物心を一如と觀じたる實在生活を以て、眞の生活と解すべきであらう。自分の一元的生活とは、物心の渾一的狀態を含む實在生活を指すのである。この生活の上に總ての政治教育、その他殖產興業などの基礎を置かねばならぬと思ふのである。

◇物的生活過重の弊◇

自分がこんな固苦しいことをいふ所以のものは、大に理由がある。在來の經濟學はアダムスミス以來、物的生活を根柢として居つたのである。即ち人間の欲求(ヒューマンウォント)を充すものを富と稱し、富を作るが生產である。富を使ふは消費であるといふやうに、物的事實に重きを措きたる故に、人はかゝる物質の提供を以て、人事足れりと爲し、またかゝる物質を多く所有するを以て、名譽とし、否これが權利の源であると考へ、終に餓ゑたる獸が、肉に向つて競爭するが如く、物質のため、人類は集中されて居つた。隨つて生存競爭の結果、弱肉強食となり、遂に人道は地を拂ふやうになつて來た。例へば婦人の貞操を金の力によつて、強迫的に賣買することは行はれ、それが爲に弱き兎が、強き猛獸に攫まれたる如く、纖弱なる婦人は、惡魔に等しき男子のために、貞操を蹂躪されて了ふやうになつたのである。而してかゝる犧牲となつた婦人に、精神上の自由を許されない。こんなことを考へると、物質のみに重きを措く在來の生活は、人類を劣等ならしめたる者と謂ねばならぬ。

◇成金跋扈の惡風潮◇

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

然しながら古風の道德觀念は、餘りに經濟を無視し、全く物質を離れて、精神生活が營まれるものと考へたる故、その結果か丶る主義主張を抱くものを、道學先生であるといふ風に輕蔑し、實際社會からその實力を見てもらふことが出來なかつたのである。されば今後は經濟と道德とを調和し、財力は精神の理想を行ふための手段に過ぎないけれども、この手段を通さなければ、何物をも實現し得ざることを悟り、物心兩者を二個のものと做さず。これを實在的に唯一のものと考へ、恰も物に表裏あり、前後ありといふ如く、名稱は二つであつても、實體は一つであるやうに、考ることが必要である。是に於て物質のみを多く所有しても、これに匹敵するだけ精神の具備せざるものは、無意義であることを悟らしめ、謂ゆる成金の跋扈といふ如き、惡風潮を改良せねばならぬ。隨つて精神が之に伴うたならば、物質を多く有することの必要なることをも認めねばならぬ。自分はこの見地から一元的生活を要求するのである。

先日府下の八王子に行き織物の工場などを觀て、工業の發達したことを大に喜んだ。然しながら、その土地の裏面を探つてみると、志あるものは、工業の發達は嘉すべきことなれども、人心が險惡になり、風俗の紊亂するのには困るといつてゐる。固より工業は物質の隆盛てあるが、物質の隆盛なる所に於ては、それに相應するだけの道德、若くは宗教など精神的生命をも與へねばならぬ。ところが工業の盛なる土地に於ては、金力萬能の風が見えて、心的方面の價値が認められてゐないやうに見える。依て殖產興業の盛なるところに於て、精神運動を起し、謂ゆる文質彬々の美を濟さしめねばならぬ。これ物心の渾一狀態なる一元的生活を必要とする所以てある。

◇米騷動と二元生活◇

今やわが日本に於て、世界的戰亂の裡多少の金貨が入つて來たのは事實である。隨て人々は幸福の生活を營み得らるべきにも關らず、米騷動の如き、不祥事件の勃發したのは、果して何が原因であらうか、大に研究せねばならぬ。或人は單にこれを思想上の變化といひ、或は單にこれを生活難の爲めだといふけれども、自分はさうは考へない。何んとなれば自分の信ずるところによれば、米相場の如き社會問題は、物心の調和を缺き、物を多く有する者に、之に相當したる心の修養がなく、之に反して學問及信仰等心の相當に發達したる者は、肉體を養ふに足るだけの物質を缺き、遂に物心の均衡を得ざる所から種々なる社會問題を惹き起すのである。故に今後とても、物心の二元的生活を改めざる限りは、如何なる問題が起るかも知れぬ。見よ一方には醉うて美人の膝を枕にするものあり、一方には病兒を抱いて饑ゑと寒さに泣くものがある。この殘酷なるコントラストを取去るにあらざれば、われ〳〵は滿足することが出來ぬ。

◇獨逸人の物的生活◇

要するに、是まで獨逸人は世界の或るものより、羨望されて居つた。即ち彼は物質の力を持ち、理を非に曲げることができると信じて居つた。國際公法の如き、大砲の筒先に向へば、朝露の如き憐なものである。又平和とか人道といふ如きは

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

弱者の夢である。權利は强者の專有すべきものであるといふ風に考へられた。此ゝに於て世界の大戰亂が始つた。もし世界が獨逸人の考へる如きものにて滿足できたとしたならば、宗教も虛僞である。道德も廢物である。而して人類は正邪善惡を判斷する理性を放擲せねばならぬ結論に達すべきであつた。然しながら人間社會は惡魔の手に渡さるゝにはまだ早い。此ゝに於てロイドジヨージの如き、ウヰルソンの如き偉人が出て、獨逸の邪道を破壞せんとする現今の狀態であるまいか、必竟するに獨逸は物的生活を以て、無上の權威あるものと認めて居つた過に陷つてゐる。ところが單に國ばかりでない。個人〳〵にも獨逸國民の如き邪道に陷つて居るものが少くない。卽ち金があるが故に、立派なる妾宅を作るのである、誰に憚る必要もないといふ如き態度を執り又黃金の光りを慕つて來る婦人は、恰も飛んで火に入る夏の蟲の如きものであつて、自業自得である。それ故に公娼廢止とか、私娼撲滅等を唱へる者は、恰も彼等を救はんとする救主の手を妨げんとするに等しいものであるといふ風に考へてゐる。こゝに於て土地繁榮策とか或は行政上の理由とか、或は衞生上の根柢といふやうな美名を藉り、貞操問題等につき、獨逸式の非人道を行はんとするもの、多々あるは、甚だ遺憾なることである。依て斯の如き人々を覺醒せしめ、遂に獨逸の如く屈服するまで、われ〳〵は奮鬪する必要がある。然しながら此の大事業を果すものは、單に舊式の精神主義のみにても不可能である。因て物心の一體となりたる實在主義を鼓吹し、苟も金力ある者は、又之に相當したる德行を有せねばならぬことを知らしめ、以て吾々日本民族の向上を圖りたいものである。されば公娼及び私娼等に對する國民の態度は獨逸に對する態度と同じものでなくてはならぬ。卽ち惡戰苦鬪を物ともせず、最後の勝利を得るまで戰ふ覺悟は肝要である。願くば同志の人士達は大に奮勵してもらひたいものである。

◇●●●生活調査 農村の生活狀態を調査してみると、農村の婦人は勞働過度のために、健康を損し、營養狀態一般に不良の徵候著しきものありといふ。吾等の見聞する範圍に於ても、然ういふ地方が甚だ多くある。若し之を打遣つて置くならば、我が民族を漸々劣惡に陷らしむることは明白である。今回も東京の生活狀態を調査する爲に、先づ本所深川の工場勞働者の生活狀態から調査を進めるといふことである。夫から次に謂ゆる勤人といふの部類に及ぶ方針であるといふ。吾等は追々調査が進んだならば、上流社會の生活狀態を、一層綿密に研究してみる必要があると思ふ。日本の如き國狀にあつては、何んといつても未だ上の好むところ、下之より甚して、善惡ともに上流の眞似をしたがる。故に救濟とか矯風とかいふことを考へるにも、下流にのみ着眼してはならぬ。

◇●●●成金生活 謂ゆる成金の贅澤驕奢といふものが、成金ならぬ貧しき者の生活に、何のぐらゐ壓迫と不快と應はしからぬ惡影響を與へてゐるのか知れぬ。歐米では今日の戰時に當りて、聊かにても贅澤に似た生活をすることを、此上もない恥辱と做し、人々競つて質實健剛の生活を營まんと努力しつゝあるに、我國に於ける近時の驕奢なる頽廢的氣分は、一國を衰亡の危機に陷るものである。

◇●●●婦人參政 今回英國下院では二十五票に對する二百七十四票の多數を以て、直に婦人に英國議會員被選權資格を與ふる法案を通過したりと。而して前食料監督局總裁ロンダ卿未亡人は上院に於ける議席をも要求する權利を主張すべしと傳へらる。米國にても、既に洲法によりて、何等の制限なく參政權を認めてゐるが十一洲ありて、納税額、教育などによりて制限を附して認めたるもの十七洲あり、全然婦人參政權を認めざるもの廿洲あるも、そは同米面積の三分の一、其人口は全人口の三割三分に過ぎざれば、大勢は最早之を聯邦法とするに傾けり。又最近ウヰルソン大統領は、上院に提出されし婦人參政法案に對して、之が通過を力說したるに、三十一票に對する五十三票の多數を得たるが、右の事情より察すれば、遠からず同案の有効に實現さるゝは疑なし。日本にありても、婦人が人生社會に盡す義務負擔のなか〳〵尠からざるを自覺すると共に、此種の政治運動必ず起らざるべからず。

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

女大學新評論（七）

『男女道德論』著者　一條忠衛

第十一章　批判

一　巫覡などの事に迷て神佛を汚し近付、猥に祈べからず。唯人間の勤を能する時は、禱らず迚も神佛は守り給ふべし。

此の章は宗教に關する迷信を戒めた、教訓である。女大學は倫理に立脚するのであるから、唯だ人間の勤を能くする事を目的とするので、人道を歩み、至誠を以て本懷とするのである。それて信條は飽く迄も眞善美又は哲學の規範的生活に根柢を置き、萬人に普遍たるべき人間の德を修めることを眼目とするのである。たから巫覡などの事とする陰陽道に迷つて、忍術卜卦を勤める必要もなく、又た佛道に迷つて觀世音に御百度を踏む必要もない。吉凶禍福はこれを神佛に禱らずも、至誠を盡して人格を實現し、或は自然科學的生活を爲し、或は審美的生活を爲し、或は道德的生活を爲し、或は哲學的生活を爲して、そこに安心立命の天國を得られるのである。『心だに誠の道にかなひなば祈らずとても神や守らん』と歌ふ精神が、この女大學の宗教觀になつて居る。此の點が實に女大學の長所であつて女大學に千載不朽の教訓があるとするならば、其れは此の第十一章であると云つて可からう。唯今我國の教育界の一部に宗教の必要を說く者があるが、其の宗教とは抑も如何なるものであるかと問へば、彼等の申すには、排他的の思想は去つて何でも善いから一つの既成宗教に入ることであると云ふ。それて或者は神道に入つて天理教信徒となり、金光教崇拜ともなり、或者は佛教に入つて眞宗門徒ともなり日蓮宗歸依者ともなり、或者は基督教に入つて天主教徒ともなり日本基督教會員ともなるの結果となり、却つて排他的の思想を旺盛にして、骨肉相食むの現象を呈出するのである。日本の如き既成宗教の輻輳せる港ては、信教の思想がおのづから自由てあるから、政治上に於ても、道德上に於ても、教育上に於ても、一個の既成宗教に向つて之れに入るべしと云ふ規範的義務は、生じて來ないのてある。入るも入らぬも各人の勝手てあり、奉ずるも奉ぜぬも世人の隨意てある。それて教育家が或る一個の既成宗教を兒童學生に强ゆることは、信教の自由を危害することに當り、大に非立憲の行爲ともなるから、教育に既成宗教を入れることは我國の社會に於ては絕對に不可能な事情がある。然るに如何なる社會を問はず、地球の東西を通じ、南北を列れて、人間の當に勤めて踏み行ふべき普遍的本務と云ふものは何であるかと問はゞ、それは申す迄も無く道德的生活、自然科學的生活、眞美的生活、又はこれを基礎づける哲學的生活てある。是れは人類の文明を向上する普遍的生活であるから、正に人道と稱すべきものである。吾々はこの世界的人道に立脚して、至誠を以て人間生活の本體と爲し、之れを身に躬行して人格を實現すれば、其れが人類共通の宗教的生活と云ふものである。將來の宗教は必ず此の統一的な世界宗教で無ければならない。教育家が宗教を必要とするならば、須らく此の世界的大宗教を採るべきてある。然るに教育に宗教を必要とする論旨から、女子教育にまで或る傳統的宗教を引入れて、儀式祈禱などを行はんとするは、巫覡に迷ふ愚婦を製造するに異ならない。女大學の宗教觀は之れを排斥するので、女子教育の宗教觀を最も公平に確立した定評とするに足るものてある。

第十二章　批判

一　人の妻と成ては其の家を能く保べし。妻の行ひ惡敷放埒なれば、家を破る。萬事儉にして費を作べからず。衣服飲食抔も身の分限に隨ひ用

Digitized by Google　　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

ひて、奢こと勿れ。

此の章は女子の個性に關する家政道德を規定した教訓である。即ち女子に齊家の德を敎へたものである。先づ『人の妻と成ては其家を能く保べし。妻の行ひ悪敷放埒なれば、家を破る。』とあるは、至極の敎法であつて、申分のない掟である。人の妻となれば一家の主婦であるから、子女を教養し朝夕の家事を勤め、家庭を整頓して、夫に内顧の憂なからしむることが肝腎である。若し妻が不行跡にして放埒であれば、家庭の教育は破壊されて不良の子女を出し、朝夕の家事は紊亂して家庭の團欒を失ひ、夫は不満の餘りに遊蕩にも耽り、瞬く間に家産を蕩盡して、親子離散の憂目を見ねばならない。妻が家政道德に勤めて良妻賢母たることは、實に婦道の第一と稱して可からう。殊に『萬事儉にして費を作べかず、衣服飲食抔も身の分限に随ひ用ひて、奢ること勿れ。』とあるは、頗る有益な教訓である。爾來儒教では道德と經濟との調和が取れて居て消費道德が發達し、義利合一の思想によつて節儉の教が鼓吹されて來た。女大學第十二章は之れを準じて女子に奢侈を戒め節儉の德を教へ、無用の支途を禁じて有用の資出を督勵して居るのは、極めて正しい修身訓である。

けれども遺憾なことには、以上の家政道德は人格主義の道德に立脚しないで家族制度の父權的家長制の道德に立脚した爲めに、個人の自由は束縛され、女子が此の經濟的家政道德を實行し得る場合は眞に極めて稀なものに爲つて居る。何となれば、家族主義の道德では男系本位の家といふ古代文明のスフキンクスから家政道德を割り出さねばならぬから、他人の家へ嫁入りした妻といふ者は、舅姑又は夫に許された範圍内に於てのみ、僅に家政道德の一端を行ひ得るに過ぎない身分になつて居る。衣服飲食のことは申すに及ばず、齊家の一切法度は凡て舅姑の胸に成り、その下知釆配の下に進退するのであるから、嫁は家政に關しては單に一の事務員に過ぎない資格である。況んや金錢會計のことは、舅又は夫の手に掌握されて居るので、女子には斷然を取ることを許されて居ない。唯だ許される場合は纔の小遣錢を處分する時位なものである。家族制度に於ける經濟は凡て男子の獨權に委ねられて居るので、女子は經濟の從屬者であるから、眞に情けによつて飼養されて居る牛馬の資格に過ぎない。夫が此の經濟力を女色のために悪用するとも、妻には其の用途を檢査する資格がない。それで家族制度の社會に於ては、妻が直接に經濟の獨立者となつて、豪奢を極め、夫の家を破ると云ふが如きことは殆ど不可能なことである。唯だ舅姑が死亡するか、若くは隱居した後に、經濟上の從屬者たる妻がその夫に強請り、美服を纏ひ金銀寶石を鏤め、山海の美味を喫して贅澤な生活をすれば、間接に夫の家を破るに至ることは疑を入れぬことである。此の第十二章は正にかう云ふ場合に適用さるべき教訓である。それで此の章は若い嫁に對する教訓では無くて、專ら中年以後の老婦に對する教訓である。併し乍ら之れを人格主義の道德として、今日の家庭の若い妻に教誡する場合は、この儘で直ぐ適用されるので、極めて立派な教訓であると申さねばならぬ。殊に個人主義の極端な米國の一部社會に於て、妻が一家の會計主任となり、儼然として奢侈を極め、夫はさながら從僕の態となつて勞役に從事して經濟的從屬者たる觀のある場合には、此の第十二章はそれを戒める道德としては蓋し有力なる警告である。

第十三章　批判

一　若き時は夫の親類友達下部等の若男には、打解けて物語近付べからず。男女の隔を固すべし。如何なる用ありとも、若男に文など通すべからず。

此の章は妻の貞操を戒めた教訓である。如何なる場合でも妻の貞操を獎勵すると云ふことは至極肝要なことであるが、女大學の貞操は家族制度に於ける男子本位の片務的な犠牲奉公であつて、且つ親や親類縁者の媒酌によつて取持つて貰つた夫に對する貞操になつて居る。それて人格的戀愛に因つて結婚した夫に對する衷心よりの喜び溢れた貞操では無い。人格的戀愛に於ける貞操は、戀愛そのものゝ當然の結果として靈肉を裏切らぬ和合性より生ずる至誠であるから、夫の親類友達下部等の若い男子に打解けて物語り近付いても、例令文通したにしろ、決して不貞の振舞となるやうな不明な結果は招かないのである。茲に戀愛結婚の人格的效果が嚴存する譯である。然るに媒酌結

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

婚に於ては、夫婦の間に愛情や和合の存否を問ふのでは無いから、従つて妻の貞操なるものは愛情の結果として要求されるのでも無く、和合の産物として渇望されるのでも無く、唯だ人の妻であると云ふ名義の上に生ずる無條件的な壓制である。況して夫が女中に戯れ、小間使を姦し、妾宅を構へ、狭斜の巷に出入する等の亂暴な場合でも、妻は愼んで貞操の堅固なることを努めて居なければならない。其の結果として、妻が夫以外の若い男子に近付けば、兼ての愛情の涸渇や性慾の不満からして、動もすれば慇懃を交へて姦通に陥り易いのである。だから妻は之れを内房に閉込めて置いて、若い男子とは一切言語を交へる機會を與へぬ制度にても為さねばならぬことになる。此の第十三章は専ら此の必要から發明された道徳で、亂暴狼籍の限りであるが、媒酌結婚に由て人の妻になつた女子には、免れぬ負擔であると見なければならぬ。

第十四章　批判

一　身の莊も衣裳の染色模様杯も目にたゝぬ様にすべし。身と衣服との穢ずして潔なるはよし。勝て清を盡し人の目に立つ程なるは悪し、只我身に應じたるを用ゆべし。

●第十四章は女子の容儀に就いての教訓である。化粧や髪飾や衣服に就いて、自分一人綺羅を盡して傍人を驚かすやうな、異様の風俗をすること無く、只だ清潔を旨とし、中庸を採つて我身に應じたるを用ゐれば、それで女道に適ふと云ふのである。此の教は頗る立派なもので、實に千古の金言であると賞讃して可い。女子が容儀を調へることは女子の個性的道徳ではあるが、其れは猥に大金を投じて華奢淫逸を競ふ行為とは異り、只だ清潔と質素と健康との間に女性美を發揮すれば可いのである。如何に紅粉を塗り、眉黛を描き綾羅金繍を纏つて見ても、その根柢に於て病的な體質に不德の精神を宿して居るやうでは、迚も美人の譽を受けることは出來ない。

美人とは健全なる身體に健全なる精神を宿して、その上に清潔で簡易なる容儀を施した女子で無ければならない。殊に精神的修養は美人の第一要件である。就中倫理道徳の修養は美人の根本的條件である。性を萬物の靈長として享けて居ながら、人道の何たるを知らず人間の群に棲息して居ながら人格徳性の次第を辨へぬならば、彼の女は是一個の動物たるに過ぎぬ者である。身に正義仁愛の衣を着ずに私慾貪婪の罪を襲ね、頭に淑徳貞操の冠を戴かずに淫逸放縱の飾を施し、顔に至誠忠直の光を放たずに詐欺瞞着の色を現はし、手に忍耐勤勉の力を注がずに柔弱虚榮の輪を填め、足に自由平等の權利を践まずに束縛壓制の掟を履んで居るは、人格を有せぬ女子の常習である。而もこれを人に示して誇り、世に傳へて譽を求めんとするは愚婦の甚だしい者であり、大馬鹿者と云ふべきである。眞面目な男子から見れば、その醜體は見るに堪えず人畜の中間を歩む四つ足の化物と判斷するより外はない。而もこの醜體を提げて自ら推薦して君子の好逑を得んとするは、僭越とも横着とも其の面の皮の厚いこと幾十枚なるかを知らざる程である。その結果は倫理道徳の修養なく品性陋劣にして徒に人爵を求むるに汲〱たる男子に與し、善悪の差別を知らぬ凡夫の妻となり、正義人道の指彈を受ける無頼漢を奉じて良人と為し、女色亂倫の遊野郎を守つて二世の同伴者と定め、身に妾の花柳病を受て命旦夕に逼り、終に諸〱の勢力に驅逐されて落魄の身と為らざるを得ない。實に慄然として身の毛の彌立を覺ゆるが如くである。然るに一般の

女子は仍ほ倫理道德を學ぶことを知らずに、衣服寶玉の爲めに全日その心を悩まし、一冊の倫理書を買ふことを吝んで化粧髮飾の爲めに數十圓を投ずるを悦ぶは、實に自ら己を驅つて死地に赴く者であつて女性の社會的薄命を招く根本的原因である。

第十五章 批判

一 我里の親の方に私し、夫の方の親類を次にすべからず。正月節句抔にも先づ夫の方を勤て次に我親の方を勤べし。夫の許さゞるには、何方へも行くべからず。私に人に饋ものすべからず。

右の章は家族制度に於ける、親戚の交際に關して、妻の心得を認めた敎訓である。先づ妻は夫の方の親戚を先にして、我里の親の方を後にせよと云ふのである。是れは先祖代々の家と云ふものを中心にして考へるからで、先づ正月節句抔てあるならば、夫の家と同姓の一族分家と云ふ資格の者から始めて、次に夫の伯父伯母に及び、次に夫の兄弟姉妹に及び、それから我里の親の方へ廻ると云ふのが順序になる。これが夫の場合であるならば、先づ己が家の一族分家から始めて、次に伯父伯母に及びそれから妻の親に及び、それから自分の兄弟姉妹に及ぶと云ふ順序になる。けれども一夫一婦を以て家とする人格主義の道德では、現代の法律と同じく親等を以て親疎の標準とするのである。然る時は自分の配偶者と自分の親とは一等親であるから、夫婦は先づ各の自分の親を定省して安否を問ふことが必要である。それから、自分の兄弟姉妹と配偶者の親とは、二等親であるから、親疎の差別が無く、何れを先にするも其時の都合次第で宜しい。それから自分の伯父伯母と配偶者の兄弟姉妹とは三等親であるから、之れも親疎の差別が無く、何れを先にするも隨意である。それから法律上に於ては傍系親は三等親內の姻族に限られて有るから、配偶者の伯父伯母は自分の親族では無く、唯だ夫の三等親の親族に過ぎない。夫れで道德上に於ても夫の伯父伯母に對しては、全く夫の親族として取扱ふべきである。是れは一寸現在の日本人には異樣に聞えるかも知れない。現在の日本人は先祖代々の家といふものから割り出して親疎の差別を考へて居るから、夫の家に最も緣故の深い伯父伯母に對しては、妻と雖も夫と同じ心で三等親に取扱つて尊敬しなければならぬ道德も生じて來るのである。それて家族制度の道德から云へば舅姑と嫁とは一等親であるから、法律上に於ても夫の伯父伯母と妻との間には等親を設けて之れを三等親の親族として規定して貰ひたいことに爲る。けれども今日の法律は現代の泰西文明の諸邦に則つたので先祖代々の家よりも一夫一婦の家庭を基礎として規定されて居るのである。一夫一婦の家庭から見れば、互に配偶者は一等親であり、配偶者の親とは二等親であり、配偶者の兄弟姉妹とは三等親であるから、斯かる緣の近い間柄に對しては親族關係を結んでも善いが、伯父伯母となつては餘りに緣が遠くなる。倫理學上に於ける男女道德は一夫一婦の家庭を基礎として成立するのであるから、法律學とその歩調を一にして居るので、配偶者の伯父伯母は全く配偶者の三等親として、特別に之を尊敬して取扱つて置くのみである。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

次に此の第十五章の後半には、『夫の許さゞるには何方へも行くべからず、私に人に饋ものすべからず。』とあるが、是れは我國の現行民法に於ても精神は同一であつて、民法第七百八十九條には、『妻は夫と同居する義務を負ふ、夫は妻をして同居を爲さしむることを要す。』とあるから、夫の許諾を得ないで妄に外出して宿泊したり逗留したりすることは絶對に相成らぬことに爲つて居る。また民法第十四條に依れば、『妻が贈與若くは遺贈を受諾し又は拒絶するには、夫の許可を受くることを要す』と規定されて有る。是から推して觀れば、家族主義の道德に於ても現行民法に於ても、男子本位に規定されて居るので、夫を重んじ妻を輕んずる形跡の顯然たるものが有る。今日の民法學者の説明に依れば、是れは一家の平和を保ち、家庭の統一を計るためであると云はれて居るが、其れは甚だしい牽強附會な議論である。外出又は贈與に關して一家の平和を保ち家庭の統一を計るならば、何も夫を本位にして規定する必要はなく、夫婦を相本位として平等の權利を與へ、對等の義務を負はすれば可いのである。何となれば、夫が勝手に外出して花柳の巷に宿泊したり、勝手に金品を持ち出して藝娼妓などに贈與するの不行跡があれば、妻だけに外出を禁じ、贈與を禁じても、一家の平和と家庭の統一とは到底保たれるもので無いからである。だから外出又は贈與等に關しては、夫婦の相對的許諾を道德ともし、法律ともしなければならぬ。家族主義の道德又は今日の民法はこの男女道德の新しい原理を根柢としなかつた爲めに、惡法となり、極めて野蠻なものに爲つて居る。

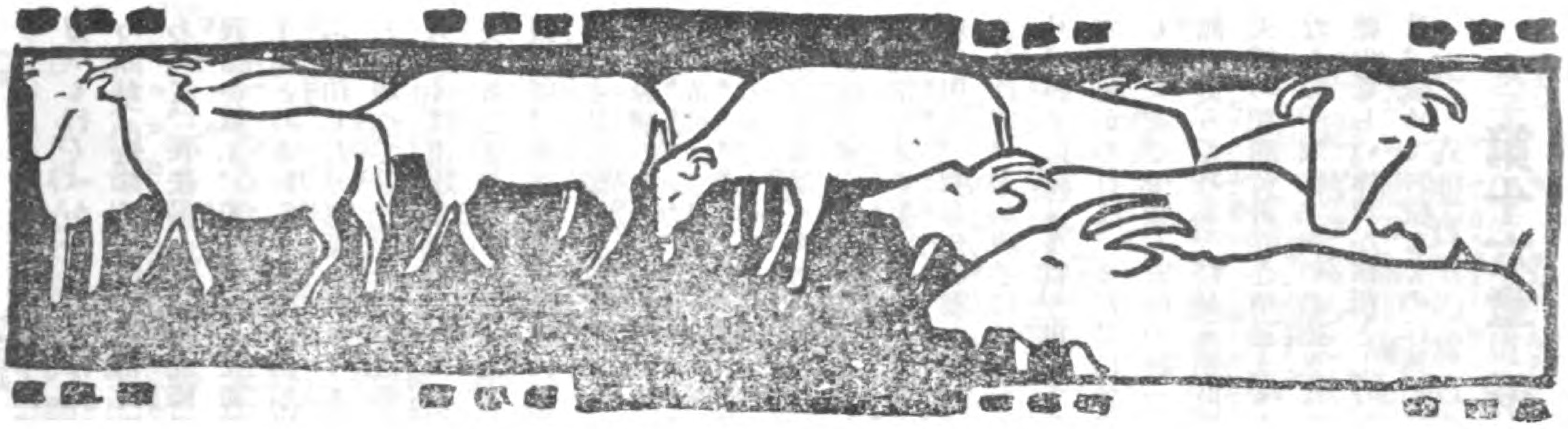
第十六章　批判

一　女は親の我家をば繼ず、舅姑の跡を繼ぐ故に、我親よりも舅姑を大切に思ひ孝行を爲べし。嫁して後は我親の家に行ことも稀成べし。増て他の家へは大方は使を遣して、音問を爲べし。又我親里の能ことを誇て讚語るべからず。

此の章は女大學第五章を更に繰り返して居るに過ぎないが、前章に親戚の交際のことを規定した序に、こゝでは親里に對する妻の交際に就いて別章を設けたのである。他人の妻と爲りては、我が親里へ行くことも稀になるから、婿家を大切にせよと云ふのである。是れは最なことで、夫婦となつて家庭を持つた以上は里よりも自分達の家庭を大切にしなければならぬ道理である。夫を一人置き去りにして、親里へ行つて遊んで居るやうな女では、眞妻とは申されない。此の意味に於て、自分の家庭を大切にして親里の事は第二にせよと云ふことは至極聞える教訓である。けれども此の十五章はさうした意味では無く、女子は舅姑の跡を繼ぐ故に、我が親里よりも舅姑の家を大切にせよと云ふ教訓である。全く舅姑の家に對して重んぜよと言ふのであつて、夫と結んだ家庭に對して重んぜよと言ふのは方角が違つて居る。是れは何故かと言ふに、家族制度の結婚なるものは、舅姑の家と結合した家族關係に過ぎないので、夫と結合した性的關係では無いからである。即ち夫と靈肉に於て結合した人格的な關係が結婚では無くして、先祖累代の墳墓を背景として立てる家といふ偶像と結合したことが結婚だからである。近代人の思想から見れば、彼等の結婚は洵に鵺の如く幽靈の如く、スフヰンクスの如く、摑みどころの無い怪物であつて、不思議と云ふも愚であり、恐ろしと云ふも愚である。それから此の十六章の最後には『我親の能ことを誇て讚語るべからず』とあるが、是れは獨り家族主義の社會のみで無く、個人主義の社會に於ても、人格主義の社會に於ても眞理である。夫婦は偕に一家を作つて親愛して居るのであるから、縱しんば配偶者の親里が微賤であつたにせよ之れを云爲することは自分の配偶者を侮蔑することに當ると同樣に、配偶者の親里が富貴であつても之れを云爲するは自分の配偶者を侮蔑することになる。夫婦が互に自分の親里の能いことを喋々して優劣を爭ふなどは、不德の至りであつて愚夫愚婦の甚だしい者である。夫婦は互にその配偶者の親里に就いて却つて此方から進んでその能いことを讚め語り、惡いとは共に悲しんで遣つてこそ夫婦の禮儀と謂ふべきである。

▲我國唯一の男女道德の教科書▼
▲廓淸會員の机上には必備の書▼
一條忠衛先生著
男女道德論
四六版　六百餘頁
定價　一圓三十錢
郵稅　八錢
右本會に於て取次ぐ

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY



男女の貞操

三等

第三高等學校生徒 緒方準一

今日は男女道德の過渡期に臨してゐる。舊道德と新道德とが大衝突をやつてゐる。社會的にも個人々々の頭の中にても。貞操問題もそうだ。家族主義の貞操は個人主義の貞操に進化しつゝある。女子獨占の貞操は女子の自覺と男子の同情によつて男女平等に向ひつゝある。

○

元來貞操は夫婦關係ある男女に道德が强ひたものであつた。家族主義の貞操の如く女は絶對に貞女たるべし、男はこの限りに非ずの時代や親の意見による結婚の有る時代には道德として一般夫婦に强ひることが出來たが、男女の知識の進んで來た今日、男女道德が新舊混亂してゐる時に、どうして貞操を靈的に目覺めた男女と目覺めざる男女とに同樣に道德として强ひることが出來やう。一般男女の道德としては貞操はあまりに除外例が多くなつて力がなくなつたと思はる。

○

貞操の道德的價値のなくなつたのは、貞操を肉的のみならず靈的にも考へだしたからである。たゞ肉的即ち外面的のみの貞操であれば世の中には數多の貞淑なる夫婦が存在するだらう。吾々は肉的ばかりでは滿足しない、靈的貞操をも考へざるを得ない。かうなりて來ると眞の貞操のある夫婦は極く少くなるに相違ない。然しこれは外部から憶測し能はざる所、たゞ夫婦の良心が批判を加へることが出來るのである。それかと云つて棄てゝ置くことは吾人の良心がゆるさぬ。

勿論今日の結婚制度では靈的貞操をさびしく云ふのは酷かもしれぬ。けれども過渡期以後の青年男女の理想として靈肉一致の貞操を高潮する。

かく靈肉共の貞操は今日一般に强ひる道德としてあまりに一般的でない。何んな夫婦にも行へるものと云ふことが出來ない。何人にもあてはめることの出來ぬ道德は道德としての價値がない理由(わけ)である。

○

貞操は道德でない。道德は他律である、自律でない。自律でないものは力を持たぬ。道德としての貞操は他律である、吾人には何の權威もない。自律の貞操でなくてはならぬ。否、吾人の靈肉一致の貞操は自律ならざるを得ない。

貞操はベシには非ず、セザルヲ得ズである。

人格的戀愛によつて結合せる一男一女が、その戀愛の完全ならんが爲、永續さすべき爲に、喜んで愛人に貞節をつくすのである。最愛の人に眞心よりそうせざるを得ないのである。他から何等の敎訓をうけなくても自然さうなるのである。

新婚當時の夫婦の樣に——人格的戀愛ならざる爲に後になつて戀愛の失せることもある。又人格的戀愛にしても後になつては新婚當時の樣な氣分はなくなるかもしれん。勿論もつと内容のある質のある戀愛となるだらうが——愛人の他に世の中何もなしと云ふ樣な時の貞操が眞の貞操である。

○

今日の所謂貞操が吾々を滿足さすことが出來なくなつたので、新しい貞操觀を建てゝみた。その實現にはまだ遠い氣がする。第一人格的戀愛が今日の社會狀態ではまづ〳〵不可能であると云つても好い。然し世の識者も追々その爲に途を開いてくれてゐるから、實現に一歩一歩と近づきつゝあることは確かである。

○

家族主義の道德は男子の專橫である、暴力である、國家滅亡の基である。

女子は子孫製造機關である、男子の肉慾娛樂機關である、又下女代用である。男子は子孫繁榮の美名のもとに多くの妾を蓄へて肉慾を滿足さしてゐる、子なきが故に悲しき運命に支配されてゐる妻が數知れずある。子供のないのは女ばかりの責任では無からうに、女には頭から權威がない。一言でも夫に向つて意見がましい事を云ふは貞淑でないとされてゐるのである。又結婚は子孫を作るばかりが目的ではなからうに、男子の肉慾は子孫を作る爲だとて多くの異性を暴力で我が物にした。妻は自分に子がない時は家を去れ、但し妾に子があるときは去らずともよいとか云ふ道德があるさうだ。

女子のみに貞操を强ひた結果、既婚男が前述の如く狂暴になつたのみならず、未婚男子にまで害毒を及ぼした。

彼等には女子の人格なんて云ふことは頭から問題ではない。單に肉塊である、生殖器にすぎないのである。今日なほ到る所の都市には遊廓があつて、金錢で女の

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

身を弄ぶことが公許されてゐる。かゝる世の中に生れ出た男子がどうして女の人格なんて考へられやう。尊敬することが出來やう。

白皙皮膚と髪毛と着物の美しい女を兩側に、堂々たる紳士が傲然と自働車を飛ばしゐるのを見ては、青春の血に燃えてゐる、考の淺はかな男子の好奇心はそゝのかされずに居やうか。ましてやかゝる女の媚び諂ひをむけられてはさなきだに強き男子の性慾は挑發されずに居やうか。而もそれが刑法上犯罪にならないのである、公然と行つても好いと政府から許可されてゐるのである。

あゝ呪ふべき社會狀態！

かゝる社會の狀態の中に目覺めずに蠢動してゐる日本の男子は、束縛せられてゐる女と共に實に氣の毒だ。かやうな男子には如何に學識ある、人格ある女子も娼妓と同じ人格にされてしまふ、どの女も皆自分の肉慾の標的になる可能性の有るもの とされて了ふのである。男子にしてもそうなるのが當然だと思ふ。

○

公娼廢止の聲がやかましくなつた。その廢止の理由や内容は確かな處を知らないが結構なことには相違ない。然し、娼妓だ賤笑婦だと云つて一概に劣等視去るは謬に過ぎる。彼等も一個の人間である。彼等の社會に及ぼす害毒は萬死に値する。けれども彼等ばかりでは害毒も及ぼすことが出來ないではないか、男と云ふ對象が無くては。

彼等の娼妓になつた動機、無智。娼妓となつて後の性慾狀態等を考へれば、罪は惡むけれども、人間としての彼等に私は同情する。寧ろ彼等を相手にして得々たる男子を惡む。知識の低い階級は問題外に置くが、知識階級の人々が平氣の平左衛門で醜行を吾々の前にさらけ出してゐる。最高の知識階級にある大學教授連がそうなのだから、大學の學生なんか御話にならぬ。殊に私の進まんとしてゐる醫科などは言語道斷であるさうだ。勿論總てとは云はぬが、かゝる教授の眞面目くさつた顔をしての講義は可笑しな光景だらうと思ふ。彼等に、あなたの性慾を制しなさい、と云つた所で何んの反響も手ごたへもない。節制が人間に非常な快樂を與へるものだと云ふことが解らないのだ。節制が如何に人間に取つて尊い物かが解らないのだから。

彼等が醜行の際、若し――相手の女は自分の母か妻か姉妹、娘て自分が他の男で、今日の前でその醜行を目撃してゐる――と想像をめぐらしたならば如何な感がするであらう。

公娼廢止も公娼の經濟、性慾を考へに入れなくては徹底しないと思ふ。同時に男子の人格教育戀愛教育が必要だ。

○

貞操は男女平等でなくてはならぬ。人格的戀愛の成立した時は平等なんて問題にならない。當然なのだから。平等なるべき貞操が今日の刑法上頭から平等でないのである。其れは姦通罪に關する項で、妻の姦通は犯罪だが、夫の姦通は犯罪にならない、たゞ人妻と姦通した時に姦通罪に問はれる。妻は夫の姦通を告訴する事は出來ないが、夫は妻の姦通を告訴することが出來る。妻の姦通は二年以下の懲役だが、夫が藝娼妓、寡婦、處女と姦通しても懲役にはならない、と云ふのである。

夫とはいへあまりの仕打に妻は離婚しやうとしても裁判沙汰にするには、女は丸きり不利な地位にある。夫の妾、藝娼妓、寡婦、處女との姦通は離婚の原因にはならない、たゞ人妻と姦通して刑に處せられた時だけ原因になる。反之して妻が夫以外の男子と姦通した時には直ちに離婚の原因になるのだそうだ。

こんな得手勝手な法律が存在してゐることは男子の恥辱である、又女子も不安である。勿論妾、娼妓などとの姦通を認めることになれば、一方公娼を許してゐるから政府は矛盾した立場に立つことになる。がどうにかしなくてはいかぬ。全然姦通を認めないことにするか、私娼制度にして男女平等に姦通を認めなくては男子として女子に面目が立たない、又女子も安心が出來ないだらう。

女にばかり姦通を嚴にすることには原因もあらう、第一に血統が亂れると云ふことであるが、この爲に女子を嚴に縛るのはあまりに女子の人格を無視した話である。この法律から女を自由にすれば直ちに良人以外の男に通ずると考へたものと見える。隨分馬鹿にした話だ。たれだつて自分の夫以外の男と姦通することを善いことだと考へてる奴があるものか。こんな法律がなくても妻の姦通は絶對に惡いことに極つてゐる。然るに夫の姦通が許されてゐるのはどこに理由がある、血統を亂さないから禁ずる必要がないと云ふのであつたらあまりに横暴な理由である。家庭の不和が多く夫の不身持から生ずることに照らして見ても、禁ずる必要がないことは絶對にないと思ふ。

○

女子はかゝる不安な、いやらしい、さもしい法律のもとにあつて何故屈服をあえてしてゐるのであらう。自覺が充りないのだと思ふ。今日の女子は一部人及女子として目覺めて來た、然し殘りの大部分は自分で自分を見くびつてゐる。「どうせ女ですもの」とか「女はつまりませんワ」とか云ふ語はいやになるほど女の方から耳にする。男子と同じ事が出來ないから女子はつまらぬ、男子の樣に我儘勝手が出來ないから女子はつまらぬと云ふのであれば、こんな勝手なことはない。自分の天分、なすべき所を忘れてゐる。女でなくては出來ない仕事は山の樣にある。人間は男女合して完全になるのだ、男子と同じ樣になつてしまつてはやりきれぬ。

先達も親類に女の子が生れたので御祝に行つた。その時の叔母の話に「生れるまではどちらでもいゝと思つてゐましたが、さて生れてみると女だと思ふと子供が憐憫さうでなりません、御乳をやつてゐてもなんだか悲しくなつて涙ぐまれます」と云ふことであつた。如何してですかと問へば、男子の樣に自由でありませんから、と云ふのである。それも一理ある。然し自分の時代に自由でないから娘の時代も自由でないと斷言することは出來ぬ。世の中も女子の自由を呼びつゝあるのであるから、娘を自由な身にするのは親の責任である。學問の自由、言論の自由、これ皆女子に開放されてゐる。然るに依然として自ら束縛された狀態に留まつてゐて、不平を云ふのはどうかと思ふ。吾々は男女同

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

權を認める。貞操も男女平等を認めてゐる。けれども今日の日本の多くの女子は男女同權や貞操の平等を主張するだけの基礎が確立してゐない。自覺が足りないのである。今日の婦人問題の多くは男子の婦人問題であつて女子の婦人問題ではない。今日の婦人はもつと自覺して自分の價値を認め、人格の修養に、學問に進まなくてはならない。かくてこそ男女の同權を確取し貞操の不平等自由をも得ることが出來るのである。今日の様に自分を見くびつてゐては駄目だ。吾々男子もなさけなくなる。時たま一寸學問でもあると直ぐ鼻にかけツンとして不健全極まる貞操を吹き廻つたりする。かゝる弱がある爲に男子は女子を馬鹿にして男女の同權を許さないことになる。女子が男子の束縛から脱れやうとすれば自分の肉の閉鎖と人格の修養と學問につとめ野獣の様な男子の中にあつても雄々しく戰ふだけの勇氣がなくては駄目である。服從は女性の美徳である、然し風がふけば吹く方になびくのではない。美しいバラにも棘がある。

○

家族主義の結婚ほど不完全極まるものはない。あれでは到底人格的戀愛を生む道理がない。僥倖にもこれを得たとするもそれは百中一つにもあたらない殆んど不可能である。從つて吾々の理想たる靈肉一致の貞操は成立の見込がないことになる。

貞操の進歩は結婚の進歩より來る。結婚の進歩は男女交際の進化より來るのである。

結婚以前の男女交際が罪惡であるかのやうに考へられてゐる間は結婚は富籤を引く様なものである、恐怖である、危險極まるものである。幸福な結婚が出來てもそれは偶然としか思はれない、富籤に當たつた人達なのだ。結婚以前の男女交際より生れる所の、人格的戀愛がない爲に、多くの人は空虛なる結婚の不幸に泣いてゐる。結婚後一年も過ぎない間に、夫は女をこしらへる、妻は云ふことも云へないで一人胸の中で惱んでゐると云ふ様な現象はザラに世の中にある。

こんな結婚で貞操などと云ふことをやかましく云ふのが間違つてゐる、云ふのが馬鹿々々しい。自分の愛しない人とどうして一生涯共に生活が出來やう。それを強ひるのはあまりに人の情を解しない頑固な道徳だと思ふ。私は寧ろ離婚して新しい戀愛生活に入る方がよほど人間らしく美しいと考へる。かゝる離婚と再婚は道徳的に一寸も惡いとは思はぬ、これによつて眞に人間として活々した生涯が開けるのである。

○

結婚は戀愛の一部分である、一經路にすぎない、これによつて戀愛は實質のあるものとなるのである。結婚によつて所謂戀愛は生れ能ふ、戀愛も必竟性慾の美化された一部分であるから。然しながらかゝる一時的刹那的戀愛は吾人の排斥する所又打破せざるべからざる所のものである。

吾人の人格的戀愛は男女が互に人格を理解し合つて、許しあつた男女兩本位の戀愛で、これより來るべき當然の結果を豫期せるものである。戀愛生活の一生涯のことを勘定に入れたものである。

○

戀愛なき結婚は、思ふのみにても醜惡なものである。何等愛情のない男女が相抱くと云ふのは、餘り人間的な感じを與へる事ではない。野合である、罪惡である。

世の中のある人は所謂戀愛結婚が決して幸福をもたらすものでないと云ひます。これは全然理の立たない議論である なんとなれば、今日の日本の社會では、男女交際の範圍が非常に制限されて居て、その中で起つた戀愛が多く立派なものでないと云ふのは止むを得ない次第である。その上に又この範圍を飛び出しての戀愛及びそれに次いでの結婚が當人達を都合よき境遇に置いてくれない故に、所謂幸福が得られないのは當然なことである。これによつて戀愛結婚が不幸をもたらすなどと云ふのは理屈になつてゐない。

それに又、戀愛當事者の御當人達もたゞ空想的な戀愛をのみ求めてゐて、お互の人格の理解だの、戀愛の結果だのを豫期してゐない爲に、不幸な結果を來たし舊思想固守連に批難されるのである。

戀愛は眞劍だ、遊び事ではない。

○

結婚前の男女の交際は罪惡ではない、少くとも自覺せる青年男女の交際は罪惡を生まない、理想の結婚に至るに當然必要なることである。自覺せる青年は廣く異性に對して人格的戀愛の相手を得なくてはならぬ。家族主義の結婚に屈服してゐるべきではない。自分の意中の異性を得るには、絶大の忍耐が必要だ。偉大なる意思の力が必要だ。忍耐と意思とを以て人格的戀愛の相手を撰擇しなくてはならぬ。あやふやな戀愛に甘んずべきではない。戀愛は眞劍だ、吾人人格のあらはれである。戀愛は熱烈な一面に、之を第三者の位置にあつて批評し得るだけの冷靜な一面もなくてはいかぬ。

吾人は結婚前の男女交際を高潮する。然し今日は過渡の時代にある、男女交際を高潮する一面、之れの自由でないのを認める。相變らず女子の交際は周圍の人の不安である。從つて交際の自由は束縛される、然し無理なことではないと思ふ。彼等の頭が頑固だと云つてしまふのは自分をかへりみない青年の暴言である、過渡期になる男女青年は今迄交際の自由でなかつた影響をうけて、異性中より、しつかりした人とくだらない人とを識別する能力が確かに進歩してゐない、これが周圍の人の不安なのである。故に過渡期の青年は極端なる自由交際を求めずに、徐ろに進んで行くべきだと思ふ。その方法は種々世の識者によつて吾々に示されてゐるが、こゝで述べるのは止める。要するに人格的戀愛を見出すのが目的であるのだから、短兵急に進まずに、徐ろに周圍の人の不安なく又自己の過失もなく交際すべきである。かくする內に異性に對する鑑賞眼も進步し來り、周圍の人々も追々當人達の自由交際自由選擇に不安を感ずることが減じてくるであらう。終には吾々の望む交際が出來るやうになるに相違ない。

○

結婚は戀愛があればこそ美しいものである、又成立するが、なくなれば醜惡で、結婚は成立すべきものではない。人格的戀愛に於てはかやうな現象は起る筈がなし、强弱はあるとも消滅の悲慘に至り得るものでは

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

ない。然し今日の社會ではこれはあり得べき現象である。先刻も云つた樣に戀愛のない夫婦の抱擁は人間らしい感じがない、かゝる結婚狀態を續けて行くのは醜惡である。貞操の名のもとに悲慘なる生活をつゞけるのは虛僞だ不道德だ。お互に離婚するのがかへつて道德的行爲であり、人間らしい。離婚するのがかへつて貞操の意義にかなふ。

○

再婚の原因は二つある、離婚後再び結婚の成立した場合と配偶者の死後再び結婚する時とである。

前者の場合はその離婚が前節の時の樣なので、而も新しい結婚が人格的戀愛を基礎とせるものである時にのみ道德的價値がある。こゝに始めて貞操が生ずる。以前の結婚はたゞ不注意であつたとして、强くとがめるべきものでないと思ふ。眞に人間として生きがひある生活に入ることが出來れば、當人のみならず周圍の人々、社會の幸福でなる。

後の場合は、私はどう考へても美しいことだとは思はれません。私の考へはあまりに理想的かも知れないが、どうしても醜惡に思はれてならぬ。吾々の結婚は自分たちに最もよい結婚である筈だ、然るに配偶者の死んだのを理由として再婚するのは、以前の結婚が最上でなかつたと云ふことになる、虛僞の結婚生活に一人の異性をとらへてゐたと云ふことになる。以前の結婚が理想的だつたとすれば、こんどのは虛僞なものになる、こんなことから家庭の不和が起る。二人の異性に肉的に接すると云ふことを考へてもあんまり面白くない。山室氏の最近の御再婚についても、種々考へました、氏にはあゝせられるのが最上の途であるのでしやうが、私に與へた印象は美しくはありませんでした。

○

道德としての貞操は理想でない、理想の貞操は人格的戀愛の質現によつて、實現されるものである。故に理想の貞操に至る爲に人格的戀愛を得なくてはならぬ。それには男女の交際が必要だと云ふことを說いた積りである。そのついでに今日の貞操問題と云はれてゐる二三の問題に對する私の意見を述べて見ました。

一九一七、一二、三〇(終り)

男女の貞操

三等

法政大學生徒　庄司作五郎

一、緒言

—問題に對する予の見界—

男女貞操の問題!!これ實に廣汎な思索と、純眞な推論を辿らればならぬ大問題である。なんとなれば男女貞操の問題は、あらゆる文化的現象の中心ともなるべき、內面的な、根底的なものであるからである。卽ちこの男女貞操の問題を個人的方面より見れば、個人生活の整純圓滿の發達を見る原動力であり、社會的に見れば社會生活、國家生活更らに進んでは、最も光榮ある文明を生むべき原動力とも見られるからである。故に此の問題の研究も乃至向上策も、或はこれを論究するものも、餘程眞摯な準備と興趣とを以て、最も內面的に、根底的に全一的に研究せればならない。別言すれば、人生の一方的觀察、社會の側面的規範を以て律すべきものにてはなくて、其の全體と根底とを最關心の目標として論究すべきものである。

如斯觀念するとき、此の問題は、人生それ自體乃至對他的問題中、最も困難な、而して最も興味ある問題であるべき筈である、然るに世の多くの識者のこの問題を論議する態度や心境を見るに、餘りに無雜作に、餘りに不徹底に過眼視して居り、從つて無意義なもの、無興味なものと思つて居る者が少くない。

思ふに、人生に對する意義と價値と方途とを理解することが、深刻になればなる程、これに對する興味と思索が眞深になると共に、眞實充分に生きるものにとつて、この問題程、切實に、內面的に、考へずに居られないものがない、故に此の問題の解明は、餘程聰明な理知と、餘程截然たる價値判斷と、且つ人生の目的實現に關する餘程根底的な、全體的な理解と興味とを保持して居るものゝ欣爲すべきものである、ところがこの問題を釋明せんとする予輩は、齡未だ而立に五星霜を距り、人生に對する、理解も興味も、甚だ幼稚であるのみならず、寧ろ感情的方面に於ては、人一倍とも思ふ程の諦趣の乏しい感傷に、意識の統一を失ふことが多いものであるが故に、甚だ不徹底な結論に至るべき當然を自ら恐れて居るものであるが、然し己れ自身の人生に關する根底的な、全體的な理解と興味とを認むることによつて、生活の充足と、安立とを策することが、强ち己れ一人の利益とのみ思はれず、愛の本質より貞操の眞義を語り、人生の意味と價値とより青年の進むべき方途を認め、生活の哲學的存昇を知ることによつて、自己存在の價値を知り、本問題の結論を求むべく、眞贓の思索と努力を拂つたつもりである。

二、愛の本質性

—貞操の眞義—

さて世のあらゆる頽廢乃至墮落、危險乃至犯罪、或は落伍者乃至沒落者といふかうした敗殘者が、何が故に斯の如き醜惡なる實相に、面接するのやむなきに至つたかを、一度深く思ひめぐらすときに、思ひ半に過ぎる程の結論を見出すのである。

凡そ一切の社會の事象は、人事と云はず、又自然と云はず、或意味に於ては、一つとして矛盾ならぬものがないやうである。然るに人間は此の盾矛に執着し、この矛盾に依倚して飽迄忠實ならんとして、而も、甚しき扞格乘離のある結果に直接しつゝあるではないか、今は此の矛盾に關する、形而上學的論斷をなすべき場合ではないのみならず、予輩の云はんとする所に、それ程の價値と意義とを加ふるものにあらざるが故に、例示論義するの煩と勞とをば、予の云はんとする興趣の中心に傾盤するの、甚だ有利なるを信ずるが故に略

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

するが、要するに人間は道徳に忠實ならんとして、幾多の矛盾を生じ、煩累に惱まされて居るのである。唯々單に盲目的に法律にのみ忠實ならんとして矛盾したる違法危險性を現出し、そこに過失故意と云ふ甚だしき矛盾を生むのである。唯々教育にのみ忠實ならんとするが故に、所謂教育の悲劇、教育の暗黒面が表現されるのである。唯々皮膚的、抹梢的愛にのみ忠實ならんとするが故に、こゝに最も醜惡なる男女間の悲劇がうつし出されるのである。かくして矛盾は永へに矛盾を生んで止まぬのである。

思ふにあらゆる生活現象の中心ともなるべきものにして、吾人の最も忠實なるべきものは、自身の眞我でなければならぬ。なんとなればこの眞我の最深要求に生きんとする意志と且つ此の眞我によつて、自我の方途を誤らしめぬ力とを正しく把捉し得たものには、絶えずすべてのもの丶本質性を鮮明に認識して居るものであつて、決して、部分的、表面的、形式的、第二義的過程には陷し得ぬものであるからである。故に眞實に價値ある愛の理解を得やうとするもの、——少くとも得させやうとする事には！其の根本動力は、眞我の正視と其の眞我をして剛岩なる力あらしむること、否それを體得させることが何物よりも必要であるのである。斯くして初めて愛の眞義も、道德の本義も、價値も、標準も、理想も、確實に樹立味到されるのである。こゝにいたると予輩は、かの醜惡多端な結果に面接したによつて、教育の意義と方途とに迷ふて居る、餘りに現覺、皮相、背景の乏しき現代の教育思想家乃至實際家に、幾多の希望も理解も且つは興味と方策とをも有するものであるが、之れも論議は他日に讓ることにして要は唯、教育者自身の覺悟と、態度人格の向上充實によつて、嚴密な意味に於ての愛の意味と價値とを男女青年に、徹底的に理解——體得——させ依つて本當の愛に生きやうとする、覺悟と、充實した愛の味得者になり得る強き「感じ」——「氣分」——「態度」の輪廓だけでも與へ得る、眞教育者の希求を切實にするものである、凡そ世の精神事業家中教育者程創造的文化進展の中心動力を與ふるものは少ないからである。

更らに思ふに、生きた人生そのものについて、何等の理解を持たずには、愛の本質性を領得し得るものではない。又只だ囚はれた、型に嵌まつたそして干からびた人生觀をのみ得て愛の本質を捕へやうとするから、いつも其の形骸にのみ接して居るのである、從つて精神の自由と眞我——自我の伸張力は無論生活の潤澤をも失ふに過ぎない結果になるのである。

予輩から見れば、愛の本義は深邃な自我——眞我の伸張力と豐富な内的經驗を味ふことによつてのみ初めて十分に闡明することが出來るものと信ずる。ところが所謂皮相の活社會、實社會に接觸することによつてのみ、愛の本質を理解しやうとするが故に全く俗惡な低級な、皮膚な、通曉は得ても決して充分の眞髓は把握し得ないことになるのである。試に懷へ、世が駸々乎として文明に進むにつれて、男子の個人的自覺が一層強烈になつて來ると共に、女子の覺醒の念も相對的に向上……或は片面的かも知れぬ……して來るのが事實的に經驗的に誰人も承認せねばならぬところの吾人天性の而も自然の趨勢である。かういふ風に社會通念の屬性が多樣になるに從つて「貞夫は兩天に見えず」の古來よりの箴言も、永久に不變な内包を有して居るものではなくて、内容變化を豫想しての價値ある貞操觀となるが故に、片面的眞理となるのである、自由結婚が非家族的なりの概念も前同樣の意義の元に内容の添加削除によつて、其の價値を育み多數人の承認を得る命題となるものであらうと信ずる、

斯く論じて此處に至れば、愈々自巳眞我の最深要求に透徹したる鮮活な生命觀生活觀があることによつて愛の本質を知ることが出來この自らの眞我の本質を汚損することの甚だ唾棄すべく、にくむべきものであることの最切實なる裏奥の呼に從ふて吾人の生命欲たる方途を誤らぬ樣にすることの出來る貞操觀こそ眞成覺醒に到したる貞操論乃要愛の本性と云はればなるまいと思ふ。予の如上の說明は餘りに抽象に過ぎるきらひがあるかも知れぬから、もう少し具體的に愛の本性乃至吾人の觀る貞操の眞義を說けば凡そ女が唯々盲目的に貞操を破る瞬間は、此の上もなき最大最惡の醜態を男に認められるものなのである、もつと眞剣に、あたかも爆彈を投げた刹那のやうな思ひ切つた覺悟を以て語れば、女が或る男に對して貞操を許せば其の初めてこれを許すと共に、既に男から輕侮せらるゝ端を啓く所以なのである。それ故にかくして許した不自然なる愛の多くは容易に男から振り捨てられるのである。それは男の輕侮を招くべき賤に力なき或る事情がある爲めに、かくの如き結果になるのである。

之れに反して、若し女が自己の最深裏奥の要望によりて鮮活な眞我の正しき啓示に從つて許すところの當然自然の交通であるなら、一層男に敬慕せらるゝことになるのである。それは其の女に崇高な貴く、美しく、床しく、見える、眞我の生んだひらめきがあるからなのである、即ち男を制服し得る隔絶した愛に對する透明な光が遂に男をしていかなる瞬間にも、犯し得ぬ最優越の愛の光がほの見えるによつて、絶えず男の最深要求の方途を過らしめぬ結果を生む偉大な精神力がそこに表はれるからなのである。

斯くの如く愛の本性乃至貞操の眞義を體認し得たものには場合によつては三夫に仕へることも、何等の破壊性も危險性も認め得ぬことになるのみならず却つて美しい結果を生むことになるのである。唯々最幽心事象は、眞我の最深裏底の要請がどれ程、自己の品位とかつは生命欲の充實とを認め得るかの、積極的な自覺的な、うなづきを得てのみ如上の眞理は、永しへに眞理なのである。

若き女よ!! さればこそナザレの聖者か誨へたてはないか「誠に汝等に告げん、人若し全世界を得るとも其の精靈に傷害あらば何物にかかへん」と、故に予輩は窈窕たる美人に悟つて貰ひたい事になる、あなた方は只そうした美を裝ふ事によつてのみ、愛を見出さうとするから貞操の眞義を沒却してしまふのではないか、思ふにあなた方は、偉大なる沈默によつて眞我の正視を心行くばかり認め得る、最優な生みの力が、先天的に賦與せられて居るてはないか、男を相對としてのみすべてを生み出さうとするから抹梢感官に終るのである。あなた方は唯子を生むことによつてのみ愛の皮相

味を味ふとするから唾棄すべき索漠な生涯に終るのである。靜かに思へば想ふ程汝等は生むことの本質を表出することによつて文明を生み眞理を生み而して愛を生むことにあなた方の尊き生命力があることを高調すべく透逸したる理知を加味した愛の唯停者であつて欲しいものである。

三、人生の意味と價値
―靑年の心的羅針盤―

以上予輩は主として、若き女を通うして一般婦人に對しての生命力たる愛の本質を把握する上の、最善至眞の方途を暗示し、而して貞操の本義を說いた積りであるが故に、更らに進んで靑年を通うしての一般男子に對する各人の心理の一角に共通な人生觀を暗示して男子の貞操の本義乃至理想の樹立の必要を力說したいと思ふのである。

凡そ如何なる人でも劣敗の悲境に沈湎することを極力排拒するであらう。そして又人性の本質性が創造的なものである限り飽迄苟且偸安の醉生的夢死の巷をのがれんとする裏情を有して居るものである、唯各人の地所位の如何によつてこの種の眞劍と貪婪な度合が違ふまでなのである、最も生命の！魂の！眞我の！覺醒を握つたものは激勵と蒸進とを以つてのみ全我の要諦となすものである、別言すれば嚴肅な生命の岐路に立つて少くとも蒸進か否らずんば退嬰かと云つた風の追分に立つて眞に生きやうと、敬虔な靜思をなした時進むことこの事を外にしては吾人の生命は無いものであるといふ誠に恐ろしい、而しながら眞に痛快な明確な自覺を持つにいたるのである。

而して最も價値ある蒸進路を辿らうとするには、どうしても高大且つ幽邃な理想を樹て唯々蒸進するに如くはないと固く思ひ定めずに居られなくなるものである。さて然らばわれらの理想はなんであらう、それは即ちこの極微弱な自巳を熱烈に育むこと、即ち最大堅粢の自己を生むことによつて己れの偉大なる創造性を披瀝し而して生の意義を闡明する事を他にして、吾人の生の價値も意義も無いものと信じ度いのである。

思ふに靑年の最も共通的裏情は、絕えず痛切に缺乏を感じ而して其の要求の對象を獲得すること、卽ち眞劍に求むると云ふ此の點にあるではないか、否自らの力の不足に對する缺乏感と自己の劣弱性に對する不滿を認むること其の事が人間の、殊に吾々靑年の最も有力なる特權と思ふことによつてのみ靑年の所謂美しいイリュージョンがあるではないか。明日をも知らぬ吾々の命、眞に電光石火に等しいこの命を持ちながら、求め得べき要求をも求めず、發揮し得べき、巳れの力をも發揮せずに、今日は西し明日は東せんといつたやうの偸安にこの生を全部とするは、あまりに惜しく、余りに情なく思はれるではないか、吾々は決して滿足した豚であつてはならない、痛切に要求し熱烈に缺乏を感ずるをによつて要求の對象を事實にすることに自己を燃燒するをが最大終局の目的でなければならぬ。

要するに如何程人生に對して眞摯な心境を懷抱して居るかと云ふことは、別言すれば、人生に對する要求がどれ程熱烈であり其の要求を事實化せんとする價値に對する信念がどれ程の力と光とがあるかと云ふことが人生觀の所謂中核でなければならぬと思ふのである更らに別言すれば、眞摯な態度と嚴肅な心境とて人生に對ずる人にのみ透徹した旺盛な永く消えぬ源泉があるのである、從つて最痛快な人生味を體得し得るものであると信ずるのである。

如斯緊張した第一義欲を基底として吾々御互の一生を刻む刹那々々を最も切な愛惜の情を以て觀照する場合所謂戀であるとか、所謂ラバアーであるとか、云つて居らるゝ場合でなく絕えず眞剣な感想を以て只一度ある吾々の一生を要望と蒸進とを以て全量とすべきことを深く〳〵感銘せずには居られないではないか。

之れまさしく眞我に目醒め、よつて生活の根本原理をさぐり得たものの心境でなければならぬ。

さは云へ、吾人御互は誰がなんと美名を以てしても盃ひ得ぬ、或る一面に於て如何ともなす術なき衝動的性能動物的欲求がある、而してこの性能が自らを誤り他を過らしめるものである、而してこの性能は決して吾々御互の自我要求の全量ではない、否寧ろかうした衝動の浮み出でたるとき幽邃な力を以て其の性能を批判し指示し啓示する眞我がさゝやいて居ることをば誰しも承認することであらう、而してこの痛感は如上の人生觀を懷抱することが聊かなりともあれば一層剴切のものがなければならぬ筈である。

予輩は貞操の眞義を論じて、一般婦人に警告する場合女が貞操を盲目的に覓ることは最大なる醜態な男に認めらるゝ所以であると說いた。

そこで予輩は更らに方面を更へて、男が女の貞操を蹂躙することは、最惡なる醜態に接することによつて自己の存在の價値と意義と且つ切角懷抱し得た、生命の眞實性を根底から汚辱するものであると叫びたい。汚辱するが故に、更らに新しい方途に目醒むる時分にはもうすでに、日暮れて道遠して遂に夢死するのやむなきにいたるのである。

之に反して、吾々が如上の緊張した生命觀を以て眞摯に嚴肅に獨自の價値を創造形成した後に、かち得た異性との交情は、愈一層獨自の價値的存在としての眞實性を益々鮮明に表示するものであると力說したい。

さればこそ三千年の昔かの孔子が敎へたてはないか「子曰知者樂水仁者樂山知者動仁者靜知者樂仁者壽」水の流るゝが如く緊張することによつてのみ靜平重厚恰も泰然たる山の如き心廣體胖を得そこにこそ安靜もあり靜平も味到されるのである、勿論孔子の心境を吾人平凡者と同一基準にして要望するは聊か無理かも知れぬが而しかうした聖賢の裏情を吾々が少くとも體得しやうと努むるをによつて、自己の劣弱性を減殺し而して意義ある正しい一步を踏出し得るものとせば希望と光明と歡喜とに充ちた生活を營爲し得る所以でもあり且は内的に自己を匡救し得るをになるのではないか。

要するに靑年の隋落は、人生に對する要求と信念との低級より必然するものなることを印すことによつてのみ自己最深要求の核心を失はぬものなのである。

四、結論
―生活の哲學的背景―

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

以上予輩は所謂男女貞操問題を個人乃至社會の問題として更らに一歩を進め文化創造の原動力中心の問題として最も切實に論究すべく愛の本質より、貞操の眞義を說き一般婦女の先天的性能の自覺の必要を語り而して後本問題の或る意味に於て主體たり破壞者たる靑年の！男の！生に對する積極的向上的理想主義の人生觀の必要と生命力の全般を暗示して、そうした自覺を基底としての貞操の眞諦を把捉すべくせしむべく――論じて來た、そこで更らに一歩を進めて生活の哲學的意義背景を知ることの必要を詳論して所謂理想主義の生活意義を肯定して見やうとしたのであつた。即ち一層個人的覺醒の第一義なることを力說しやうとしたのであるけれども顧れば三百行に越えてをるしどうしてもう百行內外を要するので遺憾ながら簡單に抽象的に本項の核心を說いて結論としたいと思ふのである。

思ふに生活の本質を、正しく理解しやうとするには、人生の全體的根本的批判をなすところの哲學的意義を吾々の人生系統に加味することによつてのみ理解し得るものと信ずる。

なんとなれば、人生の意義と價値とは、吾々先天の素質と要望とに對して、相對的なりと肯定することによつて變化極りなき生活現象の眞相をば、永劫的現在及び普遍的個體を通じて見やうとするところにこそ吾人生活の眞諦があるからである、別言すれば、一切の云爲行動は生活の本質核心とも見らるべき、最善の要求よりして、生活の改善の希求を根底として居るものである。而してこの自己の生活を改善しやうとする、根本要求の發露は、やがて人生の歸趣と完全な目的實現とを意味する最實の結論であるからである。

要は信愛の至情を以て、人生に對するとき、よりよき生活への憧憬と理解とによつてのみ「光」と「力」とを獲得し得るものである、そして之は生活の哲學的背景を認むるとによつてのみ生み出されるものなのである

故に吾々靑年は、生の生みの原動力である、形而上學的興趣を一層多趣多樣に育むの必要を御互に等しく感じればならぬと信ずる、而してこれが亦靑年の！人生の心願如是てあらればならぬ。

編輯之後

▲教育改革　現今の中學や高女を卒業したものに向つて問ふてみるに、立憲政治の名さへ知らぬ者が甚だ多い。彼等はやがて選擧權を行ふ時に、お辭儀の仕樣や何んかで投票するのである。此程も中學卒業程度の學生五六十名に對して、今日の靑年は、何故に世界の大勢や國家の前途につきて無關心無頓着なるかと尋ねるに、彼等の幾んど總ては斯る問を發せらるゝことを寧ろ怪訝に感じ、その中の一二人は若し昔の學生の如く天下國家のことを考へて居たならば、試驗に落第して了ふと憶面もなく言ひ放つに、皆之に同意の如く見えた。之に依つて察するに、今日の教育は過度の課業を器械的に詰め込んで、學生を精神的に殺しつゝある。私立の學校よりも官立の學校にありて、特に一層それが甚しい。學生はノートを作りて、ノートを其のまゝ噴き出す、一種の器械として取扱はれ、追廻はされて居る。學生の生活は、自由なる研究思索に、時を致す餘裕は毫もない。現今の教育は、やはり昔の如く依らしむべく知らしむべからずとの專制主義に基礎を置いて居る。此の如き教育學制の下にあつて、學生靑年が世界の大勢や國家の前途につきて、無關心無頓着なるは寧ろ當然の結果である。斯る教育は個人を精神的に殺すのみならず、延いて國家の基礎を危殆に陷らしむるものである。

▲食料問題　農民の側から考へれば、必らずしも米作をせねばならぬとは限らぬ。桑でも楮でも木綿でも何んでも利益の多いものを作るは止むを得ぬ。米價の騰貴が長く續くものならば、米作が增加するも知れぬ。けれども、それにしても生活の程度が進んで米を食ふことが多くなるに隨ひ、また農民が工場へ流れ込むことが多くなるに隨ひ、現在の收獲高にては不足を告げることは明かである。そこで外國の產米を輸入する政策も決して不可ではないが、大部分の食料を米に待たねばならぬとすることが、亦一種の迷信であるまいか、現に食する米の分量を半減して、他のものを以て補足しても、身體營養に却て益あるべきやう食物の調理法が見出されさうなものである。飛行機の發明や毒瓦斯を防ぐ方法を考へるに比ぶれば、これ位のことは何んでもなさゝうに思はる。

▲婦人の活動　世界大戰に於ける、聯合國側の婦人の活動を見るに、男子を奬勵し鼓舞して、これを勇んで戰場に赴かしむるも婦人である。家に留りて職業を守るも婦人である。出てゝ男子に代りて土地を耕し、或は電車を運轉し、或は諸種の工場に働くも婦人である砲彈を製造し、戰地に送る糧食を調ふも婦人である。到る所のハットに出張して疲勞せる軍人に慰安を與ふも婦人である。負傷せる軍人を看護するも婦人である。戰爭の第一線に立つものは男子なれども、その第二線に婦人が立つて居る。第一線の活動は、第二線の活動によりてのみ、長く繼續することができる。故に今日の戰爭は男子の戰爭であると同時に、女子の戰爭である。女子の力に依らずして出來ざる戰爭である。英國に於て又米國に於て婦人參政權の漸く確立せんとすること、眞に所以ありといはねばならぬ。

――(T、M生)――

大正七年十一月一日印刷（每月一回一日發行）
大正七年十一月一日發行　一部　定價金十錢

編輯兼發行人　神田區今川小路一丁目三番地　伊藤秀吉
印刷人　小石川區大塚窪町一番地　久保民生
印刷所　本鄕區眞砂町三十六番地　三光堂
發行所　神田區表猿樂町十番地　廓淸會發行所　電話本局四〇三五番　振替東京二七〇七二番

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY